

第1回 「福井の教育」 向上会議

日 時：平成26年11月26日(水)

10:00~12:00

場 所：県庁7階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 「福井の教育」 向上会議の設置について

3 協 議

(1) 福井県教育振興基本計画の進捗状況について

(2) 「福井の教育」の現状と今後の課題について

4 閉 会

「福井の教育」向上会議 出席者名簿

(五十音順、敬称略)

委員名	役職	第1回 会議
秋田 喜代美	東京大学大学院教授	
石川 浩	石川製紙(株)代表取締役社長 (県PTA連合会特別委員長)	○
下谷 政弘	福井県立大学学長	○
津田 節江	これきワイワイズ 代表 (元県教育庁企画幹)	○
禿 了修	福井仁愛学園 理事長	
徳本 範子	敦賀市教育委員	○
中室 牧子	慶応義塾大学総合政策学部准教授	○
永瀬 昭幸	(株)ナガセ 代表取締役社長 (県学力向上センターアドバイザー)	○
長谷 光城	若狭ものづくり美学舎 チーフ・ディレクター (元県教育庁教育審議監)	○
羽田野 慶子	福井大学教育地域科学部准教授	○
松木 健一	福井大学教職大学院教授	○
吉田 真士	(株)福井新聞社 代表取締役社長 (県体育協会副会長)	○

(12名)

福井県出席者

吉井 正雄 福井県教育委員長
西野 里佳 福井県教育委員 (委員長職務代理者)
林 雅則 福井県教育長

オブザーバー

福井県都市教育長協議会、福井県町教育長会、福井県私立学校連合会
福井県小学校長会、福井県中学校長会、福井県高等学校長協会
福井県体育協会、福井県教職員組合、福井県高等学校教職員組合

第1回「福井の教育」向上会議 座席図

平成26年11月26日(水) 10:00～
県庁7階 特別会議室

座長席

永瀬委員

石川委員

中室委員

吉田委員

下谷委員

松木委員

津田委員

羽田野委員

徳本委員

長谷委員

西野 吉井委員長 林教育長

職務代理者

報道関係者

報道関係者

(出入口)

オブザーバー

事務局(教育庁各課)

田中課長	上野企画幹	松田企画幹	三田村企画幹	国久企画幹	穴吹課長
(説明)					
大学・私学 振興課	吉野課長	山元課長	教育振興課		

「福井の教育」向上会議開催要領

(趣旨)

第1条 福井らしさを生かした「福井の教育」の向上を図るための方策を検討し、10年先を見通した5年間の施策を定める教育振興基本計画を策定するため、「福井の教育」向上会議（以下「向上会議」という。）を開催する。

(所掌事務)

第2条 向上会議は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 福井県教育振興基本計画に関する事項
- (2) その他福井の教育の新たな振興方策に関する事項

(委員)

第3条 向上会議は、別紙の委員により構成する。

(オブザーバー)

第4条 向上会議に、オブザーバーとして本県教育関係者を出席させることができる。

(座長および座長代理)

第5条 向上会議に座長を置く。

- 2 座長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 座長は、向上会議を代表する。

(会議)

第6条 向上会議は、座長が招集する。

- 2 座長は、向上会議の議事を進行、整理する。

(審議内容等の公表)

第7条 向上会議は、会議における審議の内容、議事要旨等を、会議終了後遅滞なく、適当と認める方法により、公表する。

(庶務)

第8条 向上会議の庶務は、福井県教育庁教育振興課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、向上会議の運営に関し必要な事項は、座長が定める。

附 則

この要領は、平成26年11月26日から施行する。

(別紙)

「福井の教育」向上会議 委員名簿

(五十音順、敬称略)

委員名	役職
秋田 喜代美	東京大学大学院教授
石川 浩	石川製紙(株)代表取締役社長 (県PTA連合会特別委員長)
下谷 政弘	福井県立大学学長
津田 節江	これきワイワイズ 代表 (元県教育庁企画幹)
禿 了修	福井仁愛学園 理事長
徳本 範子	敦賀市教育委員
中室 牧子	慶応義塾大学総合政策学部准教授
永瀬 昭幸	(株)ナガセ 代表取締役社長 (県学力向上センターアドバイザー)
長谷 光城	若狭ものづくり美学舎 チーフ・ディレクター (元県教育庁教育審議監)
羽田野 慶子	福井大学教育地域科学部准教授
松木 健一	福井大学教職大学院教授
吉田 真士	(株)福井新聞社 代表取締役社長 (県体育協会副会長)

(12名)

現計画施策 (H23~27)

◆ 基本目標1：学力の育成

「福井型18年教育」の推進

- ・ 学力向上センターの設置
- ・ 少人数教育を進め柔軟な学習指導を実現
- ・ 中高6年間を通じた英語コミュニケーション能力の向上
- ・ 国際科学オリンピックへの参加促進等による理科・数学教育の充実
- ・ 幼児教育支援センター設置、幼児教育プログラム策定
- ・ 白川文字学を活かした漢字学習の確立と定着
- ・ 学校全体の授業研究体制を支援
- ・ 大学との連携により教員の専門性向上
- ・ 教育研究所による教員支援の強化
- ・ 職業高校と大学等の連携による出前授業
現場実習や資格取得を通じた専門技能習得

◆ 基本目標2：心と体の育成

- ・ ふるさと福井について理解を深める教育の実施
- ・ 体力テストの結果を分析して体力向上策に活用
- ・ 未然防止・初期対応等の不登校対策指針

◆ 基本目標3、4：

学校づくりと地域・家庭の教育力向上

- ・ 地域・学校協議会のネットワーク化、小中連携を進展
- ・ 教職員加配等により小中学校統廃合を支援
- ・ 県立高校の再編整備
- ・ 中高一貫教育など生徒の希望を実現する体制の検討
- ・ 幼児教育における「親育ち」支援の充実
- ・ 放課後子どもクラブなど地域による学校支援の充実

◆ 基本目標5、6：スポーツ・文化の振興

- ・ 福井国体に向け計画的に施設整備、選手強化
- ・ スポーツを通じた健康づくりの推進
- ・ 漢詩・短歌等を県民文化として醸成
- ・ 地域の核となる文化財を集中的に整備

成果

◆ 学力の育成

- ・ 学力向上センターを設置して1学期から学力調査の結果を授業に反映 (H24~)
- ・ 少人数教育を進め中学1年生で30人学級編制、小学校1~3年生の35人学級編制を実現
- ・ NHKと共同作成した独自音声・映像教材の活用等により英語の話す・聞く力を向上
- ・ 高校生が2週間の海外語学研修を開始、TOEIC成績が向上 (H23~約300名参加)
- ・ 全国科学オリンピックへの参加促進 (H22：100名→H26：250名)
- ・ 南部陽一郎など一流講師によるサイエンス講演会を実施 (H23~約1,900名参加)
- ・ 白川文字学を活かした独自の教材による漢字教育を全小学校で導入 (H23~)
- ・ 幼児教育支援センターを開設 (H24~)、保幼小接続カリキュラムを策定 (H26)
- ・ 授業名人による公開授業や授業を撮影したDVD等の活用 (H19~171名任命)
- ・ 県外からの教員受入を開始 (H24~20名)、県外先進校や行政に教員を派遣 (H24~35名)
- ・ 教職大学院へ教員を派遣。中堅教員・教頭を対象に福井大学との連携研修を開始 (H23~大学院107名派遣)
- ・ 「教育情報フォーラム」を運用して学習指導プランを共有 (H23~約4,500件)
- ・ 職業高校では国家資格等の取得を促進 (H25：約2,500名)
企業現場での10日間の実習を開始 (H24~約250名)
- ・ 県外からの教育関係視察者数は5倍以上に増加 (H22：260名→H25：1,576名)

⇒ 小中学生の学力は7年連続全国トップクラス

高校生の授業わかる度はH23年の50%から76%に向上

◆ 心と体の育成

- ・ 郷土の先人の独自教材を全小学校で活用
- ・ こども歴史文化館で橋本左内や岡倉天心等の展示を実施
- ・ 全小学校で1時間以上の運動を行う「アクティブワン活動」を促進
- ・ 不登校対策指針に基づく未然防止、初期対応、自立支援による対策を徹底

⇒ 小中学生の体力は5年連続全国トップクラス

小中学校の不登校率がH15年から約2割低下

◆ 学校づくりと地域・家庭の教育力向上

- ・ 全小中学校でスクールプランを公表、小中学校の合同授業を実施 (H25：10回)
- ・ 奥越明成高校、坂井高校、若狭東高校を総合産業高校として再編
- ・ 県内小中学校の統廃合が進捗
- ・ 県立高志中・高校が平成27年4月開校予定
- ・ 幼児教育支援センターを開設して保護者支援等を実施 (H24~)

⇒ 放課後子どもクラブはH22年の90.1%から全小学校区で6年生まで拡充

◆ スポーツ・文化の振興

- ・ 福井国体に向け特別強化競技(19競技)の指定、スーパーアドバイザーの派遣 (49名)や専門教員の採用(15名)、ジュニア選手強化指定(568名)等を実施 (H23~)
- ・ 県民スポーツ祭で体験イベントや冬季スポーツを普及 (H25：35,000人参加)
- ・ 小学3年生から中学3年生の国語で百人一首、古典、漢文を活用 (H25：130時間)
- ・ 文化財指定を迅速化(4年間で37件を指定見込)

⇒ 国体順位はH22年の34位から17位に向上

平成 25 年度
福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の
点検・評価報告書

平成 26 年 9 月

福 井 県 教 育 委 員 会

— 目 次 —

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	組織および決算	3
1	組織	3
2	課別決算額調	4
IV	平成25年度福井県教育委員会の活動状況	5
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	9
3	審議会等審議状況	13
4	教育委員会関係の許認可の状況	13
5	公立高等学校入学者選抜学力検査（平成26年3月実施）結果の状況	15
6	平成25年度実施 平成26年度公立学校教員採用選考試験の実施状況	16
7	研修の実施状況	18
8	福井大学教職大学院との連携の状況	19
V	平成25年度の教育関係施策の取組実績	20
1	基本的方向	20
2	点検・評価	20
3	実施結果の概要	22
VI	有識者からの意見	45

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下、「地教行法」という。）の改正により、平成20年度から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされました。

[参 考]

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（抜粋）（平成20年4月1日改正法施行）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本報告書「平成25年度 福井県教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書」（以下、「点検・評価報告書」という。）は、地教行法の規定に基づき、より効果的な教育行政の推進と県民の皆様に対する説明責任を果たすため、福井県教育振興基本計画に掲げた施策の実施結果を示すとともに、教育委員会の各種活動状況について点検・評価した結果を取りまとめたものです。

有識者の方に内容のご確認をいただき、その意見を併せて掲載しています。

本報告書により県民の皆様から、県の教育行政についてのご意見やご要望をいただき、今後の新たな教育関連施策に活かしていきたいと考えています。

Ⅱ 点検・評価について

1 対象期間

平成25年度（平成25年4月～平成26年3月）

2 点検・評価方法

(1) 点検・評価報告書の作成

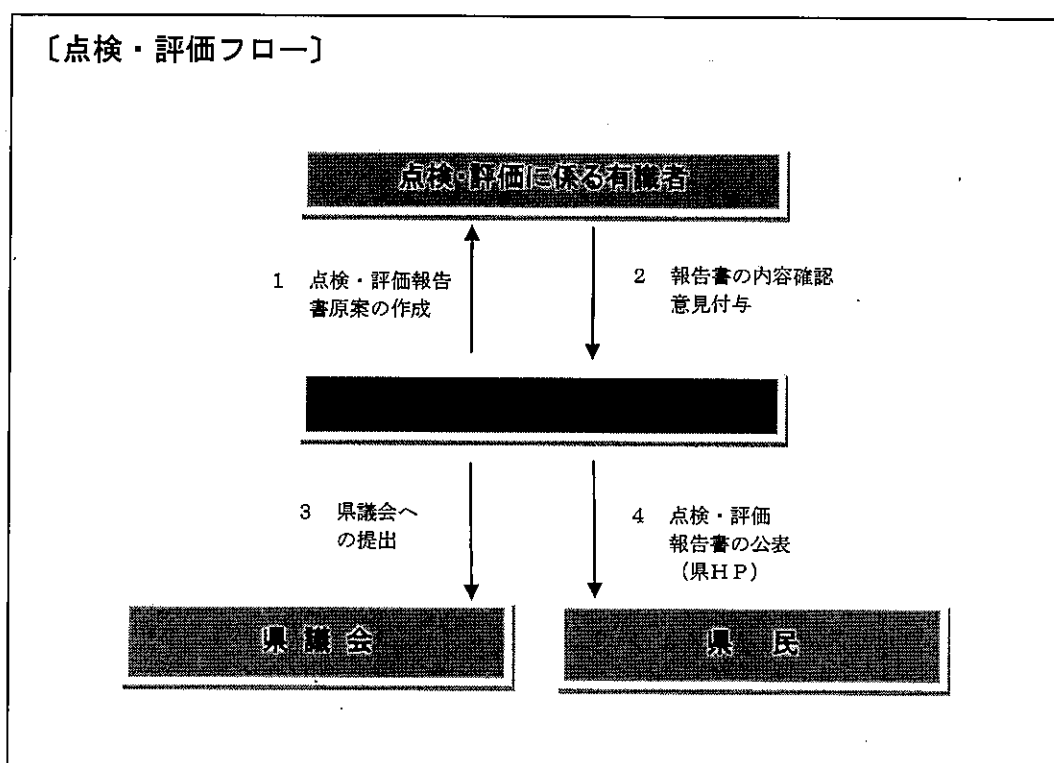
- ・ 教育委員会において点検・評価報告書案を作成

(2) 点検・評価報告書の確認、審査

- ・ 有識者による点検・評価報告書案の内容の確認および審査

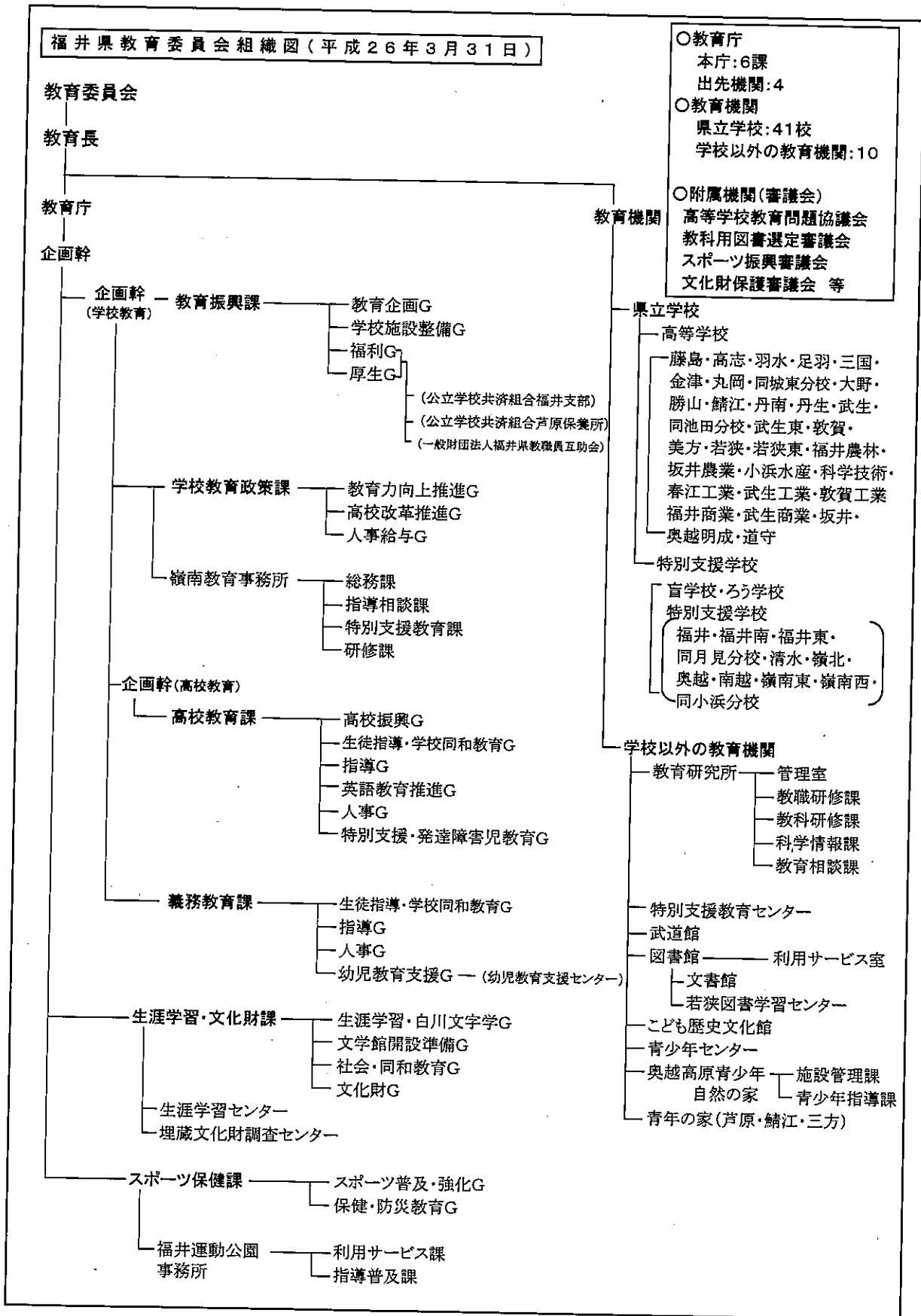
(3) 点検・評価結果の公表

- ・ 点検・評価報告書を県議会に提出するとともに、県のホームページにおいて公表



III 組織および決算

1 組織



2 課別決算額調

(一般会計)

(1) 歳入

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	調定額B	収入済額C	(不納欠損額) 収入未済額	C/A	C/B
教育振興課	1,681,493	1,671,638	1,669,288	(60) 2,290	99.3	99.9
学校教育政策課	13,542,689	13,510,545	13,510,545	0	99.8	100.0
高校教育課	211,398	209,121	189,545	19,576	89.7	90.6
義務教育課	354,271	328,001	328,001	0	92.6	100.0
生涯学習・文化財課	131,096	129,419	129,419	0	98.7	100.0
スポーツ保健課	902,889	291,988	291,988	0	32.3	100.0
計	16,823,836	16,140,712	16,118,786	(60) 21,866	95.8	99.9

(2) 歳出

(単位：千円、%)

課名等	予算現額A	支出済額B	翌年度繰越額C	不用額	B/A
教育振興課	11,986,992	11,852,678	79,578	54,736	98.9
学校教育政策課	63,007,299	62,854,135	0	153,164	99.8
高校教育課	374,923	322,168	0	52,755	85.9
義務教育課	961,027	884,451	0	76,576	92.0
生涯学習・文化財課	987,465	955,802	0	31,663	96.8
スポーツ保健課	2,107,006	906,747	1,163,633	36,626	43.0
計	79,424,712	77,775,981	1,243,211	405,520	97.9

※ 計で四捨五入になるよう端数調整

IV 平成25年度福井県教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 福井県教育委員会委員

(平成25年4月1日～平成25年10月31日)

	氏名	職業
委員長	清川 肇	会社役員
委員(委員長職務代理者)	川畑 紀義	歯科医師
委員	吉井 正雄	医師
委員	小泉 信太郎	会社役員
委員	西野 里佳	元PTA役員
委員(教育長)	林 雅則	

(平成25年11月1日～平成26年3月31日)

	氏名	職業
委員長	川畑 紀義	歯科医師
委員(委員長職務代理者)	吉井 正雄	医師
委員	清川 肇	会社役員
委員	小泉 信太郎	会社役員
委員	西野 里佳	元PTA役員
委員(教育長)	林 雅則	

(2) 教育委員会会議の開催状況

- ・ 開催回数 19回
- ・ 附議事項 53件

- 第981回（平成25年4月12日（金））
 - ・ 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について

- 第982回（平成25年4月26日（金））
 - ・ 平成25年度福井県教科用図書選定審議会委員の任命について
 - ・ 福井県心身障害児就学指導委員の委嘱について

- 第983回（平成25年5月17日（金））
 - 協議・報告事項のみ

- 第984回（平成25年6月7日（金））
 - ・ 第73回国民体育大会の開催申請について
 - ・ 平成25年度福井県立高等学校後期編入学選抜実施要項（定時制の課程および通信制の課程）の制定について
 - ・ 福井県社会教育委員の会議委員の委嘱について
 - ・ 福井県スポーツ推進審議会委員の任命について

- 第985回（平成25年7月25日（木））
 - ・ 平成26年度福井県公立学校教員採用選考試験第1次選考可否の決定について
 - ・ 平成26年度使用義務教育諸学校教科用図書採択についての基準、選定資料および採択目録の決定について
 - ・ 平成26年度使用の県立高等学校および県立特別支援学校高等部教科書採択資料作成委員の委嘱について
 - ・ 福井県スポーツ推進計画の決定について

- 第986回（平成25年8月20日（火））
 - ・ 教職員の懲戒処分について
 - ・ 平成26年度使用福井県立高等学校および県立特別支援学校高等部の教科用図書の採択について

- 第987回（平成25年8月27日（火））
 - ・ 福井県立学校設置条例の一部改正について
 - ・ 福井県教育委員会行政組織規則および福井県立学校の管理運営に関する規則の一部改正について

- 第988回 (平成25年9月13日 (金))
 - ・ 平成26年度福井県文化財調査員採用選考試験の採用内定者の決定について
 - ・ 平成24年度教育委員会の事務の管理および執行の状況の点検・評価報告書について

- 第989回 (平成25年10月10日 (木))
 - ・ 平成26年度福井県公立学校教員採用選考試験の採用内定者の決定について
 - ・ 平成25年教育功労者表彰の被表彰者の決定について

- 第990回 (平成25年10月25日 (金))
 - ・ 平成25年11月1日付け人事異動について
 - ・ 平成26年度福井県立学校入学者募集定員について
 - ・ 平成26年度福井県立高等学校入学者選抜実施要項等の制定について
 - ・ 平成26年度福井県立特別支援学校の幼稚部および高等部の入学者選考実施要項の制定について

- 第991回 (平成25年11月12日 (火))
 - ・ 平成26年度福井県公立学校小・中学校事務職員および学校栄養士採用試験の採用内定者の決定について

- 第992回 (平成25年11月25日 (月))
 - 協議・報告事項のみ

- 第993回 (平成25年12月16日 (月))
 - ・ 平成26年度教職員人事異動方針について
 - ・ 平成26年度福井県公立小・中学校および県立学校の校長・教頭任用選考試験の合格者の決定について

- 第994回 (平成26年1月16日 (木))
 - ・ 福井県朝倉氏遺跡研究協議会委員の委嘱について
 - ・ 福井県立図書館規則の一部改正について

- 第995回 (平成26年1月30日 (木))
 - ・ 平成26年度福井県職員(学芸員)採用選考試験の採用内定者の決定について
 - ・ 南部陽一郎記念ふくいサイエンス賞受賞者の決定について

- 第996回 (平成26年2月25日 (火))
 - ・ 福井県立学校設置条例等の一部改正について
 - ・ 福井県立高等学校入学料等徴収条例等の一部改正について
 - ・ 福井県立学校職員定数条例の一部改正について
 - ・ 市町立学校県費負担教職員定数条例の一部改正について

- ・ 福井県社会教育委員条例の制定等について
 - ・ 福井県立図書館使用料徴収条例等の一部改正について
 - ・ 福井県立恐竜博物館の設置および管理に関する条例の一部改正について
 - ・ 福井県立美術館の設置および管理に関する条例等の一部改正について
 - ・ 福井県立若狭歴史民俗資料館の設置および管理に関する条例の一部改正について
 - ・ 平成26年度福井県公立学校再任用職員採用選考審査の採用内定者の決定について
 - ・ 福井県立美術館運営協議会委員の任命について
 - ・ 平成25年度使用福井県立高等学校の教科用図書の採択について
- 第997回（平成26年3月11日（火））
- ・ 平成26年4月1日付け教育庁および学校以外の教育機関の管理職（教員出身者）の人事異動について
 - ・ 平成26年度公立小中学校校長・教頭および県立学校校長・教頭の人事異動について
 - ・ 平成25年度ふくい優秀教職員表彰被表彰者の決定について
 - ・ 平成25年度漢字指導者の認定について
- 第998回（平成26年3月20日（木））
- ・ 非常勤講師の懲戒処分について
- 第999回（平成26年3月24日（月））
- ・ 平成26年4月1日付け機構改革（教育委員会関係）および教職員以外の参事級以上の職員の人事異動について
 - ・ 平成26年4月1日付け機構改革に伴う福井県教育委員会規則の一部改正について
 - ・ 福井県銃砲刀剣類登録審査委員の任命について
 - ・ 平成25年度授業名人の任命について
 - ・ 福井県いじめ防止基本方針の決定について
 - ・ 福井県指定文化財の指定について

2 教育委員の活動状況

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名
平成25年 4月 2日	平成25年度教員初任者研修講話	清川
4月 5日	県立学校開校式 (奥越特別支援)	清川、川畑、吉井、小泉、林
4月 8日	県立学校開校式 (若狭、若狭東)	清川、吉井
4月12日	知事との意見交換	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
4月12日	第981回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
4月26日	第982回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
5月 7日	永年勤続教職員表彰式	清川、川畑、西野、林
5月 9日	市町教育委員会連絡協議会 総会	清川
5月 9日	市町教育委員会連絡協議会 研修会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
5月17日	第983回教育委員会	清川、川畑、吉井、西野、林
5月21日	坂井地区合同教育委員会懇談会	西野
5月30日	福井県市町女性教育委員の会	西野
5月31日	学校視察 (春江西小・明道中)	清川、川畑、吉井、小泉
6月 6日	学校視察 (丸岡中・明新小)	清川、吉井
6月 7日	第984回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
6月 7日	公安委員との意見交換	清川、川畑、吉井、西野、林
6月10日	県立教頭会	清川、林
6月10日	嶺南地区校長会	吉井
6月11日	学校視察 (松岡小・芦原中)	西野
6月13日	学校視察 (敦賀高・美方高)	川畑、西野
6月18日	学校視察 (福井商・足羽高)	清川、川畑、吉井、小泉
6月18日	県議会本会議	西野、林
6月20日	県議会本会議	清川、林
6月25日	県議会本会議	川畑、林
6月26日	県議会本会議	小泉、林
6月27日	学校視察 (敦賀西小・美浜中)	吉井
6月27日	事務局説明 (高校教育課)	清川
7月 5日	県議会本会議	吉井、林
7月18・19日	全国都道府県教育委員会連合会第1回総会 等	清川、林
7月25日	第985回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
7月25日	知事との意見交換	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
8月 1日	国民体育大会福井県準備委員会第4回総会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名
8月 6日	教員採用試験面接	川畑、西野
8月 7日	教員採用試験面接	清川、吉井、西野
8月 8日	教員採用試験面接	川畑、吉井、小泉
8月 9日	教員採用試験面接	清川、小泉、西野
8月20日	第986回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
8月27日	教育向上会議	清川、川畑、小泉、西野、林
8月27日	第987回教育委員会	清川、川畑、小泉、西野、林
8月27日	県立校長会との意見交換会	清川、川畑、小泉、西野、林
9月11日	指導主事等研究協議会	川畑、西野
9月13日	知事との意見交換	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
9月13日	第988回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
9月18日	県議会本会議	清川、林
9月20日	県議会本会議	川畑、林
9月21日	体育大会(嶺南西特別支援)	吉井
9月25日	県議会本会議	小泉、林
9月26日	県議会本会議	吉井、林
9月28日	羽水高校50周年記念式典	清川
9月29日	盲学校創立100周年記念式典	清川
10月 5日	丸岡高校創立100周年記念式典	西野、林
10月 8日	県議会本会議	西野、林
10月 8日	若狭高校公開研究授業	吉井
10月10日	第989回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
10月16日	辞令交付式	清川、林
10月25日	第990回教育委員会	清川、川畑、吉井、小泉、西野、林
10月30日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会	清川、川畑、吉井、小泉、西野
10月31日	東海北陸ブロック教育委員全員協議会視察	清川、川畑、吉井、小泉、西野
11月 2日	福井農林高校創立120周年記念式典	川畑、林
11月 5日	管理職任用選考試験面接	清川
11月 6日	管理職任用選考試験面接	清川
11月 7日	教育功労者表彰式	川畑、小泉、西野、林
11月11日	管理職任用選考試験面接	川畑、吉井
11月12日	第991回教育委員会	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
11月12日	管理職任用選考試験面接	西野
11月13日	管理職任用選考試験面接	西野
11月14日	管理職任用選考試験面接	川畑、吉井
11月25日	第992回教育委員会	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
11月26日	嶺南地区教頭会総会・研究協議会	吉井

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名
1 1 月 2 7 日	県議会本会議	清川、林
1 1 月 2 9 日	県議会本会議	小泉、林
1 2 月 4 日	県議会本会議	西野、林
1 2 月 5 日	県議会本会議	吉井、林
1 2 月 9 日	白川静漢字教育賞表彰式	川畑、林
1 2 月 1 6 日	知事との意見交換	川畑、吉井、清川、西野、林
1 2 月 1 6 日	第 9 9 3 回教育委員会	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
1 2 月 1 7 日	県議会本会議	川畑、林
平成 2 6 年 1 月 1 6 日	第 9 9 4 回教育委員会	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
1 月 2 0 日 2 1 日	全国都道府県教育委員会連合会第 2 回総会等	川畑、林
1 月 3 0 日	知事との意見交換	川畑、吉井、清川、西野、林
1 月 3 0 日	第 9 9 5 回教育委員会	川畑、吉井、清川、西野、林
2 月 7 日	県政功労者表彰式	川畑、林
2 月 8 日	福井職業教育フェア	川畑、林
2 月 1 9 日	嶺南教育事務所教育研究発表会	吉井
2 月 2 1 日	国民体育大会福井県準備委員会常任委員会	川畑、林
2 月 2 5 日	第 9 9 6 回教育委員会	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
2 月 2 6 日	県議会本会議	吉井、林
2 月 2 8 日	県議会本会議	川畑、林
3 月 2 日	県立学校卒業式 (道守)	清川
3 月 2 日	学力向上フォーラム	川畑
3 月 3 日	県立学校卒業式 (武生、福井農林、小浜水産、三国)	川畑、吉井、清川、西野、林
3 月 4 日	県議会本会議	西野、林
3 月 4 日	県立学校卒業式 (藤島、若狭、勝山)	川畑、吉井、小泉
3 月 5 日	県議会本会議	小泉、林
3 月 1 1 日	県立学校卒業式 (南越特別支援、ろう)	川畑、西野
3 月 1 1 日	第 9 9 7 回教育委員会	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
3 月 1 2 日	県立学校卒業式 (福井特別支援、奥越特別支援、福井南特別支援)	清川、小泉、西野、林
3 月 1 2 日	福井保護司選考会	川畑
3 月 1 3 日	「世界の書籍展」開会式	川畑
3 月 1 4 日	県立学校卒業式 (嶺南西特別支援)	吉井
3 月 1 5 日	「ありがとう雲龍丸」式典	川畑、吉井
3 月 1 8 日	知事との意見交換	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
3 月 1 8 日	漢字教育指導者認定式	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
3 月 1 9 日	県議会本会議	清川、林

時 期	活 動 内 容 (参加行事等)	委 員 名
3月20日	第998回教育委員会	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
3月24日	ふくい優秀教職員表彰式	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
3月24日	第999回教育委員会	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林
3月28日	北電教育振興財団評議員会	川畑
3月31日	退職教職員辞令交付式・表彰式	川畑、吉井、清川、小泉、西野、林

※ 教育長単独での活動の記載は省略してあります。

3 審議会等審議状況

名 称	委員数	会議開催数	件 名	種 別	年月日
福井県心身障害児就学指導委員会	20	3	県立特別支援学校の該当児判断について	審議	25. 6. 14 25. 9. 20 26. 1. 10
福井県教科用図書選定審議会	17	2	義務教育諸学校で使用する教科用図書について	審議・答申	25. 5. 14 25. 6. 10
福井県文化財保護審議会	15	3	県指定の現地調査依頼について 指定文化財の諮問について 指定文化財の答申について	審議・諮問・協議・答申	25. 6. 17 25. 12. 26 26. 3. 6
福井県社会教育委員の会議	10	4	社会教育の動向と新しい活動事例について 社会教育団体・公民館による新たな活動の展開について 今後の社会教育と社会教育団体の新たな活動について 県民における社会教育の位置付けの強化について 各社会教育団体の構造や活動内容の改善について	協議	25. 6. 13 25. 8. 1 25. 10. 7 25. 10. 23
福井県朝倉氏遺跡研究協議会	10	2	平成 25 年度事業実施状況について 今後の事業計画について 平成 25 年度事業実績について 平成 26 年度事業計画について	協議	25. 8. 7 26. 3. 10
福井県スポーツ推進審議会	15	1	福井県スポーツ推進計画について	審議	25. 5. 27

4 教育委員会関係の許認可の状況

(1) 教育職員免許状の授与等（平成 25 年度）

区分	専修免許状	1 種免許状	2 種免許状	特別免許状	臨時免許状	合 計
小学校	39	122	28		21	210
中学校	57	105	7		8	177
高等学校	74	227			62	363
特別支援学校	6	23	20		5	54
幼稚園	3	62	123		6	194
養護教員	1	10	3			14
栄養教員		25	1			26
自立教科等					1	1
合 計	180	574	182		103	1,039

(2) 文化財の指定状況

平成25年度においては、有形文化財（建造物）1件、有形文化財（美術工艺品）4件、無形民俗文化財2件、名勝1件を新たに県指定文化財に指定しました。

また、2件が新たに国重要文化財に、1件が国重要有形民俗文化財に指定されました。

<指定文化財の現状>

平成26年3月31日現在

区分	国			県指定	計
	指定	選定・選択	登録		
国 宝	6				6
重要文化財	101				101
有形文化財			1	216	217
無形文化財	1			4	5
重要有形民俗文化財	1				1
有形民俗文化財			1	9	10
重要無形民俗文化財	5				5
無形民俗文化財		10		62	72
特別史跡	1				1
史 跡	23			29	52
特別名勝	1				1
名 勝	12			6	18
特別天然記念物	4				4
天然記念物	16			32	48
特別名勝天然記念物					
名勝天然記念物	1				1
計	172	10	2	358	542
重要伝統的建造物群 保存地区		2			2
選定保存技術		1			1
登録有形文化財 (建造物)			119		119
登録記念物			3		3

(3) 銃砲刀剣類の登録状況

銃砲刀剣類所持等取締法に基づき、審査会を開催し、登録証の交付等をおり行いました。

登録証交付 57 件

登録証再交付 20 件

(4) 教育委員会所管の公益法人

33法人（平成26年3月31日現在）

新制度移行法人（公益財団法人16 公益社団法人1 一般財団法人10
一般社団法人6）

5 公立高等学校入学者選抜学力検査（平成26年3月実施）結果の状況

平成26年3月6日、7日に実施した全日制・定時制の第1次の学力検査合格者4,581人に関する課程別・教科別の平均点は、表1のとおりです。

また、推薦入学、第1次学力検査および第2次学力検査の課程別の合格者数は、表2のとおりです。

表1 課程別・教科別の平均点

※（ ）内は前年度実績

教科	全 日 制	定 時 制
国 語	60.7 (63.9)	32.6 (33.7)
英 語	53.6 (72.2)	15.4 (24.8)
数 学	51.3 (55.7)	11.4 (16.7)
社 会	58.7 (64.3)	
理 科	51.6 (61.4)	
総 点	275.8 (317.5)	59.3 (76.8)

表2 課程別の合格者数

	全 日 制	定 時 制	合 計
推薦入学によるもの	950(934)		950(934)
連携型中高一貫教育校入学者選抜によるもの	86(95)		86(95)
1次学力検査によるもの	4,393(4,315)	188(174)	4,581(4,489)
2次学力検査によるもの	26(35)	57(69)	83(104)
計	5,455(5,379)	245(243)	5,700(5,622)

6 平成25年度実施 平成26年度公立学校教員採用選考試験の実施状況

第1次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成25年7月13日(土) 一般教養・教職専門・専門教科(小学校、 高等学校各教科、養護教諭、栄養教諭)	福井県立羽水高等学校(福井市羽水1-302) 福井県立大学(吉田郡永平寺町松岡兼定島4-1-1) 【小学校実技(ピアノ・水泳)】
平成25年7月14日(日) 専門教科(中学校各教科、中高一括で行 う教科、特別支援学校)	男子:木田小学校(福井市木田1-1360) 女子:嶺北特別支援学校 (坂井市丸岡町熊堂3-36) 【中高音楽実技】木田小学校

第2次選考試験

試験期日および場所

期 日 等	場 所
平成25年8月5日(月) 適性検査、小論文	福井県立羽水高等学校 (福井市羽水1-302)
平成25年8月6日(火)、7日(水)、 8日(木)、9日(金) 面接(4日間のうち指定した1日) (集団討論、個人面接)	

《 教員採用試験の改善について 》

優秀な人材の確保、選考過程の透明性、公平性を図るため、次のような改善を行いました。

○ 優秀な人材の確保

< 18年度から実施 >

- ・受験資格を60歳未満に拡大
- ・講師経験者の1次選考免除を導入

< 19年度から実施 >

- ・2次選考において、場面指導を導入
- ・国際貢献活動経験者の1次選考免除を導入

< 20年度から実施 >

- ・大学院修士課程修了時の特別選考を導入

< 21年度から実施 >

- ・面接の重視(配点割合の引き上げ)
- ・「音楽」「美術」を含む全教科での筆記試験の実施

< 23年度から実施 >

- ・スポーツ特別選考の実施

< 25年度から実施 >

- ・従来の一括募集を校種・教科別の募集に変更
- ・2つの校種・教科を併願できるように変更
- ・校種・教科の専門試験を1次選考で実施（全ての受験者が専門試験を受験）
- ・2次選考の「場面指導」を「集団討論」に変更
- ・面接の重視（配点割合の引き上げ）

○ 受験者に対する情報の提供

< 20年度から実施 >

- ・2次選考の不合格者に対して、成績をA、B、Cの三段階で通知
- ・試験問題の持ち帰りと、解答例・配点の公表（自己採点可能）
- ・個人情報開示請求に基づき、以下の情報を開示
1次選考、2次選考における筆記試験、実技試験、面接、作文の点数
- ・筆記試験、実技試験、面接、作文の配点ならびに評価項目など選考基準をホームページで公開
- ・1次選考合格者、最終合格者について、可否結果通知の発送に併せて、ホームページでも受験番号を公表

< 21年度から実施 >

- ・判定基準をホームページで事前発表
- ・解答例、設問別配点をホームページに掲載（自己採点可能）
- ・不合格者の希望者に筆記試験、実技、作文、面接の各点数および合計点数を通知

○ 選考過程の改善

< 20年度から実施 >

- ・改ざん等の不正防止のため、担当部署以外の行政職員による答案や面接時の個票と選考資料との突き合わせ点検実施
- ・民間有識者による、選考手順や選考内容の点検、抽出データによる答案等の元データと選考資料データの突合

< 21年度から実施 >

- ・実技試験において、受験番号にかわり整理番号の使用

< 24年度から実施 >

- ・電子申請による受付

7 研修の実施状況

平成25年度の職員研修については次のとおりです。

区 分		研 修 名	研修期間
指 定 研 修	基本研修	初任者研修	1年(校外14日+校内180時間)
		幼稚園新採用教員研修	1年(園外10日+園内10日)
		5年経験者研修	1年(3日)
		10年経験者研修(幼稚園)	1年(園外4日+園内10日)
		10年経験者研修(小学校・中学校・県立学校)	1年(校外8日+校内15日)
	主任等研修	教育相談・生徒指導主事研修	1講座 1日
		養護教諭研修	1講座 1日
		理科実習助手研修	1講座 1日
		臨時任用講師研修	1講座 4日
		中堅教員研修	1講座 5日
	管理職等研修	新任校長研修	1講座 3日
		新任教頭研修	1講座 5日
		経年管理職研修	2講座 各1日
	専 門 研 修	教科等に 関する研修	幼稚園教育に関する研修
小学校の各教科に関する研修			28講座 各1日
中学校の各教科に関する研修			22講座 各1~2日
高校の各教科に関する研修			14講座 各1~2日
その他(校種を超えた研修)			9講座 各1日
教科以外の 課題等に 関する研修		道徳教育	2講座 各2日
		学級経営	1講座 1日
		不登校対応	1講座 1日
		教育相談関係	10講座 各1日
		総合的な学習の時間	1講座 1日
		へき地複式教育	1講座 1日
		食育	1講座 1日
		人権教育	1講座 1日
		漢字教育(白川文字学)	1講座 2日
		NIE活動に関する研修	1講座 1日
		情報教育に関する研修	25講座 各1日
		保護者対応	1講座 1日
		教養研修	5講座 各1日
		マネジメントスキル	5講座 各1日
		教育法規	1講座 1日

8 福井大学教職大学院との連携の状況

高度な専門性と実践力を備えた教員の養成を目指して、平成19年に北陸地域で唯一設置された専門職大学院である福井大学の教職大学院と、さまざまな連携した取組みを行っています。

○現職教員を教職大学院の実務家教員として派遣

現場での実践経験の豊かな管理職教員（元中学校長1名、元中学校教頭1名（平成25年度））を教職大学院の教員として平成19年開学時から派遣しています。

○中核現職教員を教職大学院の「スクールリーダー養成コース」の学生として派遣

教職大学院では新人教員の養成と併せ、「スクールリーダー養成コース」を開設し、地域や学校において指導的役割を果たし得る教員養成を目指しており、このコースに県内小中学校、県立高校から16名（平成25年度）の中堅教員を学生として派遣しています。

○学校を拠点とした協働実践研究の実施

スクールリーダー養成コースに入学した現職教員は、勤務する学校において、学校が抱えるテーマや課題について、教職大学院の教員とともに協働研究を行っています。このような学校を拠点として実践的な研究を行うシステムにより、現職教員が学校で勤務を続けながら自校の課題について学校ぐるみで取り組むことが可能となっています。

○「新任教頭研修」と「教員免許更新講習」の協働実施

教育委員会が行う新任教頭研修と福井大学の教員免許更新講習との連携により、研修効果を高めています。これは、教員免許更新講習のグループ討議でのファシリテーター（調整・進行者）役に新任教頭を起用するものであり、新任教頭研修の一環として平成23年度から実施しています。これにより、教職員評価システムにおいて、新たに評価者となる新任教頭のコーチング技術等の向上を図ります。

○「ミドルステップアップ研修」の協働企画・実施

教育委員会が行うミドルリーダー養成研修について、平成24年度から教職大学院と協働で企画・実施しています。これまでの座学中心の研修から、1年間にわたり勤務校での実践研究を中心とするものに変更し、授業研究の在り方等を改善していく研修としています。

V 平成25年度の教育関係施策の取組実績

1 基本的方向

福井県教育委員会では、おおむね10年先を見通した教育のめざすべき姿と、平成23年度から平成27年度までの5年間に取り組むべき施策の方向性をまとめた「福井県教育振興基本計画」を策定しました。（平成23年9月）

計画では、「夢と希望に向かって、豊かな心でたくましく生きる力を育む教育県・福井」の基本理念に基づき、6つの基本目標を掲げており、目標達成に向けて計画の推進に取り組みました。

2 点検・評価

「福井県教育振興基本計画」において、特に重点的に取り組むこととした以下の施策について、平成25年度実績の点検・評価を行います。

① 「福井型18年教育」の推進

中高の接続を意識した授業改善を進めるため、中学校や高校で校種の異なる教員が参加する公開授業や授業研究を実施しました。また、全国学力・学習状況調査、福井県学力調査等の結果分析を行い、授業を改善しました。

今後、平成27年4月に開校予定の併設型中高一貫教育校、連携型中高一貫教育の実績や他県の状況を分析し、本県の中高接続等のあり方を検討することが必要です。

② 幼児教育の推進（基本目標1-3-①：P26）

「幼児教育支援センター」を中心に保育士・幼稚園教諭の資質向上のための研修や出前講座等を開催しました。

引き続き研修等を徹底するとともに、今後、保幼小接続カリキュラムを全小学校区で実践して定着を図り、各保育所、幼稚園でリーダーとなる人材を育てることが必要です。

③ 教員の指導力向上（基本目標1-1-③：P23）

「授業名人」等の模範授業をDVDに編集し各高校で活用しました。また、若手教員を東京事務所や他県の中高一貫教育校などに派遣し、本県の教員向けに随時情報発信しました。

今後、ICT機能を活用した予習を重視する学習など、高校における新しい授業を実践して、教員の授業改善を進めることが必要です。併せて、教員が主体的に授業改善を進める自主研究会を育成・支援していきます。

④ 国際人を育成する英語教育の充実（基本目標1-1-⑤：P24）

本県独自教材「福ーイングリッシュ」を活用してティーム・ティーチングを実施しました。また、本県独自教材「グローバル・スタディーズ」を活用して小学4年生か

ら映像や歌で英語に親しむ授業を開始しました。

今後、英文和訳中心の授業から「聞く」「話す」ことを中心とする授業手法へ改善するとともに、英語教育の土台となる英語教員の英語力を向上させることが必要です。

⑤ 道徳教育の充実（基本目標 2-1-①：P 28）

福井県ゆかりの人物等を題材に取り入れた「福井県版心のノート」を作成し、小1・小3・小5・中1の児童生徒に配布して活用しました。また、県内3市町10小学校で保護者等と「親子で学ぶ道徳講座」を実施しました。

「いじめを否定する」児童や「友達が悪いことをしたときに注意する」児童の割合は全国平均よりやや低いため、今後、道徳の教科化を見据え、さらに対応が必要です。

⑥ 豊かな体験活動の推進（基本目標 2-1-③：P 29）

高校生による小学校児童への出前授業を行いました。また、青少年教育施設での体験活動モデルプログラム集の活用を図りました。

児童・生徒数の減少や学習指導要領改訂に伴う総合的な学習の時間数の減少により学校での長期宿泊体験活動が減少しており、今後、学校と連携した活用促進が必要です。

⑦ 県立高等学校の再編整備と魅力ある学校づくり（基本目標 3-2-①：P 36）

若狭地区に続き、坂井地区の総合産業高等学校として、坂井高等学校の平成26年4月開校に向けた準備を進め、また、併設型中高一貫教育校の平成27年4月開校に向けたカリキュラム等の検討、説明会を開催しました。

これまでの高校再編等の成果を検証して、今後の高校入学定員の考え方や分校、全日制・定通制のあり方などを検討する必要があります。

⑧ 平成30年の福井国体に向けた競技力の向上（基本目標 5-2-②：P 41）

有望選手を「チームふくい」強化指定選手に認定して計画的に強化しました。また、重点強化校、強化推進校の指定を進めるとともに、スーパーアドバイザーなどトップレベルの指導者から指導を受ける機会を充実させました。

今後、強豪チームの更なる強化と未普及競技の選手強化が必要です。

⑨ 「文字の国 福井」の推進（基本目標 6-3-①：P 43）

「白川静漢字教育賞」を創設し、表彰式で優秀事例を実践報告しました。また、貴重資料の収集など「ふるさと文学館（仮称）」を平成27年2月に県立図書館内に開設するための準備を進めました。

今後、漢字指導者認定制度等の活用により、漢字に対する興味を高めるだけでなく、漢字を活用する力や読解力の向上につなげるための教員の指導力向上が必要です。

3 実施結果の概要

基本目標1 生きる力につながる確かな学力の育成

1 確かな学力の育成

①知識・技能の確実な習得と活用力の育成

■「学力向上センター」を核とした小・中学校の授業の改善

4月に実施した全国学力・学習状況調査後、すぐに県独自の結果分析を進め、5月には各市町の指導主事に指導ポイントを説明し、各学校で1学期から苦手克服のための授業を行いました。

国の調査結果が公表された後は、直ちに全国との比較を行うなど詳細な分析を行い、9月には約300名の小・中学校の学習指導担当を集め、授業改善事例等について意見交換を行い、授業改善を行いました。

12月に実施した県学力調査(SASA)の結果を受けて、指導のポイントと補助教材をセットにした課題克服教材集(リトライプリント)を作成し、授業や家庭学習で弱点克服のために活用しました。

全ての小学校で百人一首に、全ての中学校で漢詩・漢文に親しむ活動を取り入れました。

■教科指導の改善

6月と11月に全県立高校で授業わかる度調査を実施し、その結果分析を踏まえ、各高校において、授業改善に取り組み、公開授業等で成果の検証を行いました。

中学と高校を通じた数学の体系を示した鳥瞰図を作成し各県立高校で活用しました。

■新聞を活用した教育の推進による情報活用力やコミュニケーション能力等の育成

9月に「新聞を活用した教育研修会」を実施し、県内全ての小・中学校から教員約280名が参加しました。県NIE教育研究会と共同で、NIE実践校の実践報告やNIE実践教員によるパネルディスカッションを開催し、授業や朝の会、学校行事などで新聞を活用する機会を増やしました。

②少人数教育によるきめ細かな指導の推進

■本県独自の少人数教育の充実

「元氣福井っ子新笑顔プラン」により、国の定める40人学級編制を下回る少人数教育を進めました。発達障害等の児童・生徒のために配置している特別支援非常勤講師を昨年度より3名増員して、支援体制を充実させました。

中学校での習熟の差の大きい数学と英語で習熟度別指導のための教員を、昨年度同様14名配置しました。

③教員の指導力向上

■教員同士の学び合いの促進

高校1年生が履修する科目について授業名人等の模範授業をDVDに編集し各高校に配布し、各学校では授業研究会や初任者研修会で活用しました。普通科系高校17校において、若手教員の授業力向上を進めるため、年間を通じて「若手教員授業力向上塾」を開催し、授業名人や指導力のある教員が指導・助言を行いました。普通科系高校では「授業力向上チーム」を設け、各校独自に授業わかる度調査の結果分析を踏まえた公開授業を開催し、授業改善を進め、公開授業・授業研究会を76回開催しました。

高校の授業研究会に中学教員（延べ126名）が、中学校の授業研究会に高校教員（延べ214名）が参加して互いに学び合い、高校入学後のつまずきやすい内容の指導方法などを検討し、授業改善に取り組みました。

中高授業接続ガイドの授業改善事例を新たに34件追加作成し、当初作成分と合わせて68件に充実させ、これらの事例を活用して中高の接続を重視した授業改善に取り組みました。

平成24年度から始めた基本研修（初任者、5年・10年経験者）における世代や校種を超えた小グループでの実践発表（クロスセッション）を増加して、教員同士の学び合いを促進しました。小・中学校では、国語14校、算数・数学14校、合計28校を研究指定し、コア・ティーチャーを中心に研究を実施するとともに、県・市町指導主事が指定校を訪問し指導しました。

■大学や企業等との連携による指導力の向上

東京の大手塾や他県の中高一貫教育校などに研修派遣された教員が学んだ内容を、本県の教員向けに、随時情報発信するとともに、指導主事研究会や教員研修会などで報告し、指導力の向上に役立てました。

県立高校職業学科担当教員を夏季休業中に県内企業に派遣し、専門知識や技術等を習得させました。

■教育研究所による教員支援の強化

教育研究所機能強化検討委員会を立ち上げ、通信型研修や実践型研修など、これからの新しい研修の在り方、教育研究の強化策の提言を取りまとめました。

「教育情報フォーラム」に新たに優れた学習指導プランを追加掲載するとともに、検索機能を加えて活用しやすいように改善しました。

④理科・数学教育の充実

■サイエンスの基礎学力の定着

「スーパーサイエンスハイスクール」については、藤島高校が文部科学省から指定されました。「スーパーサイエンスクラブ」については、金津高校、敦賀高校、美方高校、羽水高校、大野高校、福井農林高校に加え、3校（丹生、鯖江、武生東）を指定しました。

算数オリンピック大会については、6月に高志高校で予選が行われ、生徒がハイレベルな問題にチャレンジしました。7月のファイナル大会にも1名が出場しました。

全小・中学校において、発展的な実験や自由研究を支援する「夏休み理科実験応援プロジェクト」を実施し、子どもたちの科学の芽を育てました。

科学部員などの理科好きな中学生の専門性を深めるため、最先端の科学教材（色素増感太陽電池）を用いて、若狭湾エネルギー研究センター職員の指導のもと「夏休み科学実験チャレンジ教室」を開催し、363人が参加しました。

平成24年度に県が独自に作成した実験指導書「観察・実験レシピ集」を活用し、小・中学校教員対象の研修会を、県内7ブロックで3回ずつ計21回開催しました。

■大学・企業の参加によるサイエンスの応用力・実践力の向上

サイエンス教育を広げるため中・高校生を対象に開催している「ふくい理数グランプリ」の参加者が1,148名（前年度628名）に、高校生の全国科学オリンピック等への参加者も239名（前年度196名）にそれぞれ増加しました。また、日本数学オリンピック本選へ3名、日本情報オリンピック本選へ1名が進出し、日本情報オリンピックでは優秀賞を受賞しました。

南部陽一郎先生と本県高校生とのサイエンス交流会を初めて開催しました。南部先生の学問に対する深い情熱を直接聞く機会を得て、生徒は自分の将来に対する高い理想が芽生えました。

高校生の科学に対する知的好奇心を高めるため、東京理科大学の藤嶋昭学長を招き、県内高校生約300名を対象に「ふくいサイエンスフェスタ2013」を開催しました。

福井大学や県児童科学館と連携し、高校生科学部部員対象の春季・夏季サイエンス研修会を開催しました。

■地域とともに伸ばす子どもたちの「科学の芽」

小・中学生を対象に科学実験などを行うサイエンス博士を学校や地域に132回派遣し、子どもたちが科学に慣れ親しむ環境づくりを進めました。

⑤国際人を育成する英語教育の充実

■語学音声教育の推進による実践的なコミュニケーション能力の育成

音声教育の専門家等からなる「英語授業改善推進委員会」を開催し、英文和訳や文法中心の授業から英語を「聞く」「話す」ことを中心とする授業への改善について検討しました。

全ての県立高校で、本県独自の教材「福ーイングリッシュ」をALTとのティームティーチングを中心に活用し、英語を活かした活動への意欲や表現力を高めました。また、米国へ生徒100名を語学研修に派遣するなど授業外で英語に触れる機会を充実し、センター試験では全国トップレベルの成績を維持しました。

英語教員の指導力向上のため、NHK英語番組講師によるワークショップを2回開催し、授業でのラジオ講座テキストの活用法や、授業改善、音声トレーニングの方法について研修を行うとともに、米国大学へ教員10名を派遣し、コミュニケーション力の強化を図りました。

中学校では、NHK教材を活用し、多様な表現方法を学ぶとともに、全ての中学3年生に高校英語を取り込んだ「長文速読ワークシート」を活用した授業を始め、正確な速読力や高校で学ぶ表現方法を学習しました。

■小学校段階からの外国語活動の推進

全ての小学4年生に、福井県版補助教材「グローバル・スタディーズ」(DVD)を活用して、毎月1回英語に慣れ親しむ活動を行い、英語での挨拶や身の回りの英語を聞いたり発音したりできるようになりました。8月下旬に県内を7ブロックに分けて小学4年の学級担任250名を対象に研修会を開催、小学校5・6年生の学級担任230名を対象にした研修会を開催し、教員の指導力向上を図りました。

⑥情報教育の充実

■子どもたちの情報活用能力と情報モラルの育成

ネットの正しい利用について注意喚起するため、ポスターを各高校で掲示したほか、本県出身のボクシング元世界チャンピオン清水智信氏による、ネット依存をやめスポーツ等に打ち込むことの大切さを生徒に語り掛ける校内放送用CDを作成し昼休み等に放送しました。

サイバー犯罪の危険性や対策等についての専門知識を有する「サイバー犯罪アドバイザー」に指定された警察官42人が、県警作成のサイバー犯罪の危険性や対策を紹介したパンフレット「巻き込まれない、だまされない!!サイバー犯罪対策」を活用し、県内少・中・高校約120校において、子ども、保護者および教員約19,000人に対し広報・啓発活動を実施しました。

インターネット通信(SNS等)の落とし穴と注意点、トラブルの対応策に関する「中学1年生用ネット通信利用ガイド」を作成しました。平成26年度は、インターネットの利用に関するルールづくりの働きかけや危険性や注意点等について考える機会を設けるとともに、研修会等を充実させて情報モラル教育をさらに推進します。

■教員の情報教育指導力の育成

教育研究所において、全ての県立学校の教員を対象にしたタブレット端末の基本的操作研修を実施しました。中学校の社会、理科の教員全員対象に、操作研修と社会、理科のICT機器を活用した授業方法についての研修を行い、教員の指導力を向上させました。

高校の地歴・公民、理科のICT機器を活用した公開授業、授業研究会を嶺北、嶺南で各2回ずつ開催し、指導力向上に取り組みました。

最新のネットによるトラブルや、その防止対策について、ネットゲームソフト会社等の専門家による教員に対する研修を実施しました。

⑦白川文字学による独自の漢字学習の推進

■白川文字学を活用した漢字学習の確立と定着

各小学校において白川文字学の授業を実施しました。(1年生～4年生:各学年で10時間、5年生～6年生:5時間)

276時間の授業を公開し、3,231人の学校関係者、保護者が参観しました。各小学校での成果と来年度に向けての課題を明らかにすることができました。

中学校、高校では、白川文字学教育研究会や市町指導主事の協力を得て作成した「漢字教育素材集(試案)」等をもとに7授業を公開し、小学校での学習の継続・発展の足掛かりをつくりました。

■漢字学・白川文字学を学ぶ人材の育成

白川文字学の理解を深めるとともに、幅広く漢字や文字への関心を高めるための研修会等を19回実施し、延べ823名が参加しました。各小中学校の先生に対して、積極的な参加を呼びかけました。漢字指導者認定制度を創設し、研修会参加実績や課題レポートなどの審査を経て66名(小学校53名、中学校5名、県立8名)を認定しました。

今年度創設した「白川静漢字教育賞」には、全国26都府県から62名の応募があり、最優秀賞2名、優秀賞1名、特別賞1名を表彰するとともに、表彰式では実践報告が行われました。

2 地域産業を担う人材の育成

①キャリア教育の充実

■将来の夢や希望を伸ばし育てる教育を推進

11月に宇宙科学研究所（JAXA）の阪本成一氏を招いて、「夢や希望を育てる講演会」を実施し、県内中学生や保護者、教育関係者約500名が参加しました。

学校関係者や大学関係者の協力を得て作成した小学校版・中学校版「私の夢カルテ」を、4月に県下全ての公立小学校4年生、中学校1年生に配布しました。

■職業体験を軸としたキャリア教育の充実

県内全ての市町において、小学校では地域の放送局・新聞社・消防署などでの職場見学を実施し、中学校では保育所・商店などでの職場体験活動を実施しました。

②高等学校での職業教育の推進

■職業系高校生の資格取得の応援

職業系高校において、企業の技術者等の外部指導者延べ14名を学校に招き、資格取得に向けた実習、講習を33回実施しました。

■地域の産業のための人材育成

社会のニーズや技術の進展に対応するために、企業関係者をアドバイザーとして学校に招き、授業やカリキュラムの改善や補助教材の開発等を行ったほか、生徒の夏季休業中の長期企業研修（10日間）や企業技術者を学校に招いて実習指導を行いました。若狭東高校では植物工場装置を導入し、地域で普及しつつある新たな農業施設の基礎実習を始めました。

■職業人としてのモラルと態度の育成

就職内定者1,400人を対象とした「ビジネススキルアップセミナー」を12月に開催し、職業人としての心がまえや職場におけるビジネスマナー、コミュニケーションスキル等の研修を行いました。

3 幼児教育の推進

①幼児教育の推進

■幼児教育センター（仮称）による幼児教育の推進

福井県幼児教育支援センターでは、保育士・幼稚園教諭の資質向上、保幼小の連携、家庭教育力の向上を支援するため研修や出前講座等を開催したほか、嶺南地域での研修機会を増やし、利便性を向上させるため、月1回程度、「嶺南デー」を実施しました。ホームページに研修や出前講座等の開催状況を掲載し、活動状況を広く周知しました。

■地域や家庭と一体となった幼児教育の質の向上

家庭教育支援チームおよび市町教育委員会家庭教育担当者対象のネットワーク研修会を2回実施しました。家庭教育支援者として活動できる人材の養成およびスキルアップのための「子育てサポーターステップアップ研修講座」を、2会場で各8講座開催しました。

5月から10月まで、家庭教育支援テレビ番組「ぶらり子育てしゃべり隊」を放送し、家庭教育電話相談「すこやかダイヤル」を週3日（年間140日）開設しました。

保育所・幼稚園での幼児教育の一層の向上を図るため、幼児教育アドバイザーによる巡回訪問を130回実施したほか、幼児の保護者を対象にした出前家庭教育講座を98回開催しました。（約2,500名参加）

4 特別支援教育の推進

①特別支援学校の適正配置と機能の充実

■特別支援学校の環境の充実

奥越特別支援学校を開設し、県内の特別支援学校で初となる食品加工室を使用したパン等の食品製造や販売の学習をカリキュラムに設けたほか、地元の小中学校での共同学習や交流を進めました。

■障害に対応した機器整備と活用能力の育成

コミュニケーションの困難な児童・生徒に対して、タブレット端末等を活用することにより意思表示する環境を一部整えました。その他、肢体不自由児へのVOCA（音声合成）や視覚障害児の点字プリンター等の機器を各教科、自立活動の授業の中で活用しました。特別支援教育センターにおいてICTを活用した授業について研修を実施し、125名が参加しました。

■高等学校段階の教育の充実

特別支援学校に5名の就職支援指導員（坂井奥越1名、福井2名、丹南1名、嶺南1名）を配置し、企業等への職場開拓等を行いました。（高等部卒業生の就職率 29.8%）

■特別支援学校の教員の専門性の向上

免許法認定講習を4講座（専門講座（知的障害、肢体不自由、病弱各1）、共通講座1）開催しました。スクールカウンセラー、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）およびST（言語聴覚士）等の外部専門家31名による巡回指導や事例検討会議・校内研修を111回実施し、教員の専門性の向上を図りました。

各学校で授業改善等テーマを決めて実践研究に取り組みました。

②一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実

■発達段階に応じた関係機関との連携強化

保育カウンセラー等と連携し、特別支援教育センター・嶺南教育事務所と各特別支援学校において、特別な教育的支援が必要な幼児・児童・生徒に対する巡回相談（3,290件、21,859回）を行いました。

特別支援教育センター・嶺南教育事務所にタッチパネル式パソコンを配備し、学習障害等のある児童・生徒に対するICT機器による学習支援・指導を行うほか、学習面でつまづきのある児童・生徒への支援・指導事例集を作成し、県内の幼稚園・小・中・高校に配付しました。

■小・中学校等における支援の充実

発達障害や特別な支援が必要な児童生徒に対して、就学前から就労までの一貫した指導・支援を継続するため、県内4地区で指導・支援の実践を行いながら、「指導・支援事例集」、「移行支援ガイドライン」および5歳児の保護者向けのリーフレット「子どもたち一人ひとりの笑顔のために」を発行し、活用を進めました。

パン等の食品製造や販売の学習をカリキュラムに設けるなど、「職業体験講座」を実施しました。

特別支援非常勤講師を5名増の36名を配置し、通常学級に在籍する発達障害等のある児童・生徒の支援体制の充実を図りました。

基本目標 2 豊かな心と健やかな体の育成

1 豊かな心の育成

① 道徳教育の充実

■ 独自教材による道徳教育の充実

夢や目標を持ち何事にも挑戦しようとするたくましい子どもを育てるため、福井県ゆかりの人物等を題材に取り入れた「福井県版心のノート」を作成し小1・小3・小5・中1の児童・生徒に配布するとともに、教育研究所の道徳教育研修講座において活用事例を紹介しました。

■ 保護者・地域参加型の道徳授業

県内3地域の10小学校で、「親子で学ぶ道徳講座」を実施し、保護者や地域の人たちとともに道徳学習を実施しました。

■ 子どもと地域を「ことばで結ぶ」絆づくり運動

地域でのあいさつなどを通してお互いのつながりを深めるための活動を、中学校区ごとに小中学校が連携して取り組みました。

■ 道徳的実践の場としての体験活動・奉仕活動の充実

清掃ボランティアなど社会福祉に関わる体験活動を173の小学校と68の中学校が実施しました。

青年の家等において仲間と励まし合い、実施感を味わいながら規範意識や思いやりを育む体験活動（オリエンテーリングや登山など）を実施するとともに、思考力や判断力、精神力を鍛える長距離カヌーや冬のキャンプ等新しい体験活動の検討を進めました。

② 人権教育の充実

■ 計画的・組織的な人権教育の推進

全小中学校において、スクールプランの中に人権教育の視点を入れ、人権教育全体計画・推進計画・年間指導計画を作成しました。各教科、道徳、特別活動、総合的な学習等での実践を通して見直しを図りながら人権教育を進めました。

県内を3つの地域に分けて、全ての小・中・高校および特別支援学校の人権教育担当者を対象とした研修会を開催しました。

■ 指導者の育成と資質の向上

各事業所等の指導的立場の人を対象とした指導者研修会を嶺北・嶺南地区で開催し、同和問題を中心に長年人権に関する研究実践に取り組まれている講師による講演と体験的参加型学習を行いました。各市町社会教育指導員等を対象にファシリテーター養成研修を2回実施し、各市町での人権教育の参加型学習の実践につなげました。

指導力の向上と地域を巻き込んだ人権教育を進めるため、池田小学校を人権教育研究指定校に、三方中学校区を人権教育推進地域に指定し、人権教育の在り方や様々な人権問題の指導方法、保護者・地域への啓発等について研究を深めました。

■ 人権教育の指導内容および指導方法の工夫・改善

公民館職員および生涯学習関係職員を対象に、人権教育におけるワークショップ（体験的参加型学習）の進め方についての研修会を開催しました。各市町で実践されたワークショップをまとめた実践集を作成・配布しました。

③豊かな体験活動の推進

■学校における多様な体験活動の推進

平成24年度に作成した体験活動モデルプログラム集活用に向けて、県内小学校への働きかけの他に、8月に近隣10府県へも教育施設利用を呼びかけ、モデルプログラム集ダイジェスト版を送付しました。

県内9小学校が県内青少年教育施設を利用して、複数回の野外活動や周辺施設での体験を盛り込んだ2泊3日の長期宿泊体験活動を実施するとともに、県内外の322団体がモデルプログラム集に記載されているものづくりや自然観察のプログラムを実施しました。

金津高校生による、小学校児童への出前授業（理科・社会）を行いました。

■時代のニーズに対応した新たな体験学習の構築

子ども会と連携したジュニア・リーダー研修会を年4回実施しました。新しい芦原青年の家整備に向けて、思考力や精神力を鍛える新たな体験学習プログラムの検討を進めました。

■青少年教育施設の機能の充実

周辺施設との連携の拡充を図るとともに、県内青少年教育施設主催の41事業で、平成24年度に作成した体験活動モデルプログラム集を活用した事業を実施しました。

■農業体験活動を通じた食農教育の推進

254の小・中学校において、JA等の指導による米づくり体験、学校給食用の畑を使った農家と子どもたちによる畑作体験、体験圃場を確保できない市街地の児童・生徒を対象とした農産物加工体験などの農業体験活動を実施しました。58の小・中学校において、味覚の授業を実施しました。

■伝統的地場産業に関する学習体験の拡充

小・中学生が「伝統的工芸品」を身近に感じられるよう、漆器や和紙などの6産地組合において体験学習会を実施し、生徒1,552名が参加しました。

④環境教育の推進

■体系的な環境教育の推進

生きものに関心をもち、学校の周りの生きもの調査学習を進める「いきものひやくようばこ」の取組みを行いました。

自然環境保全についての意識を高め、環境教育の指導力向上を図るため、教育研究所において、教員対象の「理科におけるエネルギー環境教育」研修講座を2回実施しました。若狭高校ではスーパーサイエンスハイスクールの取組みの一環として、他県の高校生を招き、環境エネルギー学会を開催しました。

■体験を重視した環境学習の充実

「エコワークブック」の追加版として里山特集号を作成し、県内198の小学校、77の中学校でエコワークブックを活用した授業を進め、野外観察等の体験学習を行いました。

環境教育の充実のために「環境アドバイザー」を28回学校に派遣しました。

里地里山をフィールドに、環境保全と生物多様性調査などを行う「里地里山クラブ」を県内16市町から小学校20校指定し、各校の学習を支援しました。9月には越前市において、それぞれの取組みについて情報交換を行う「福井子ども環境教育フォーラム」を開催し、60の小・中学校が参加するなど一般市民も含め約1,000人が参加しました。

■ユネスコスクール参加校の拡大

勝山市の全小・中学校12校がユネスコスクールへの加盟申請を行い、昨年度加盟した坂井市鳴鹿小学校と合わせて公立小・中学校13校が活動しました。

⑤ふるさと教育の推進

■学校教育の中での「ふるさと福井」の理解の促進

こども歴史文化館の常設展示として、ふるさとで活躍する司辻光男(越前焼)、高橋輝代(和紙人形作家)や、かるたクイーン山崎みゆきを追加するとともに、文学館、美術館などとの連携を図りながら、橋本左内や岡倉天心を特集した展示を実施しました。

「これき人物シリーズ5 福井の先人たち近現代」を発刊、全小学校に配布しました。高浜町の小学校に出向き、白川博士をテーマにした出前授業を実施しました。

■「元気ふくいっ子ふるさと貢献プロジェクト」の推進

海の自然環境を体感することにより、環境保全意識を醸成し豊かな感性が育めるよう、約1,400人(80学級)の小・中学生を対象に、里海での船乗り体験を実施しました。

■地域資源の活用によるふるさと教育の推進

県立青少年教育施設において、自然や産業など地域資源を活用した体験活動プログラム集を用いて、磯観察やクロススキー、陶芸など周辺地域の自然環境や伝統産業を学ぶ体験活動を実施しました。

■伝統行事等への参加促進

福井の文化や担い手を育成するため、次代を担う子どもたちが県内の文化活動団体とともに地域の伝統文化や優れた芸術文化活動に参加し、身近な地域で芸術文化活動に参加できる「子ども文化塾」などを開催しました。

(一級の芸術・文化を体験した子どもの数 約74,000人)

■先人に学ぶ機会の提供

こども歴史文化館において益田縄手、ジョージ・アルノルド・エッセルを、さらに達人として、越前焼、越前和紙など福井の伝統産業に関わる、司辻光男、高橋輝代や、かるたクイーン山崎みゆきをを紹介するパネルを追加しました。

エッセルに関連した夏休みの特集展示「フシギフシギノクニ展」では22,072名が来館しました。

文学館、美術館などとの連携を図りながら、橋本左内や岡倉天心を特集した展示を実施しました。

■こども歴史文化館の充実

4月に博物館登録を行い、松旭斎天一の資料の寄託、福井県ゆかりの収集家による蓄音機の寄贈など貴重な資料を収集し、博物館としての機能を強化しました。

県内他施設との連携を図った特集展示、展示に関わるイベント等で年間来館者数は5万人を突破しました。

⑥読書活動の推進

■家庭における読書活動の推進

県立図書館において、保護者向けのパンフレット「おうちでえほん！～絵本で子育てを楽しく～」を発行し、家庭での読み聞かせの大切さを伝えることと乳幼児向け絵本の紹介をしました。今後も、県立図書館で開催する幼児を対象とした「おはなし会」をさらに充実させ、家庭における読書習慣の向上を図ります。

本県出身の絵本作家・加古里子氏が選定した「福井県の子どもたちに読んでもらいたい絵本セレクション」を県内保育園、幼稚園等に周知したほか、幼児教育支援センターのアドバイザーが出前講座を開催し、幼児の保護者に絵本の選び方や読ませ方を紹介しました。

高校生の読書意欲の喚起を図るため、県立高校25校で推薦図書や必読書を示して読書活動を推進しました。

■地域における読書活動の推進

県立図書館において、地域で活動している読書ボランティア等を対象とした「読み聞かせ相談会」を実施し、読書活動推進担手のレベルアップに寄与しました。

※ 開催回数8回 参加人数約40人

■学校での読書活動の推進

県立図書館所蔵資料の学校への貸出を積極的に行い、学校への直接的支援を行いました。

※ 貸出件数126件 貸出冊数約4,100冊

■読書活動を支える環境整備と人材の育成

図書の貸し出しや各種研修講座を通じて、読書活動推進の拠点となる各市町図書館への支援を積極的に行いました。

※ 県立図書館から市町立図書館への貸出約18,300冊

※ 市町立図書館向けの研修講座を8回（うち、児童サービス研修会4回）開催

※ 読み聞かせ講座（嶺北約80名 嶺南約20名参加）
指導者研修会（約100名参加）

2 健やかな体の育成

①体力・運動能力の向上

■児童生徒の体力の維持向上

全ての公立小・中・高校で、「体力向上推進計画」を作成し、体育の授業や休み時間の運動で体力の向上に取り組みました。課題としてきた握力については、「グー・パー体操」やうんてい・のぼり綱を使った取組みを実施した結果、小学校5年生および中学2年生の握力の平均記録が平成21年より0.265kg上昇しました。

全ての公立小学校で休み時間や放課後を利用して1時間以上の運動を行う「アクティブワン活動」を推進しました。その中で放課後もスポーツ活動に取り組んだ学校は74%です。

■運動部活動の充実

文部科学省が策定した「運動部活動での指導のガイドライン（平成25年5月27日）」の周知徹底を図るため、研修会を開催し、適切かつ充実した運動部活動の運営がなされるよう、学校の全体計画を全中学校、高校で作成し、運動部活動指導の充実を図りました。

②健康教育の推進

■学校保健活動の強化

全ての学校で学校保健計画を策定し、家庭や地域との連携を密にするため、養護教諭や保健主事を対象とした学校保健委員会の運営方法についての研修会を、2回開催しました。

■子どもたちの目と歯の健康の増進

すべての小中学校で教室に「目の健康を守る3か条」を掲示して、目の健康を守る児童生徒の意識を高めたほか、目を休める「リフレッシュタイム」の設定を行いました。小学1・2年生や平成26年度入学予定児に正しい姿勢やテレビ視聴のきまりなど、目を大切にする生活チェックを行う健康カードを配布し、保護者と一緒に近視予防につながる生活習慣の定着を図りました。

正しい歯みがき習慣の定着を図るために、すべての小学校の1・2年生を対象とした歯みがき教室を開催し、リーフレットを活用した家庭での歯みがき実践を行いました。

■薬物乱用防止教育の推進

「第三次薬物乱用防止五か年戦略」の諸対策を踏まえ、多様化する乱用薬物に関する対策の理解と学校における薬物乱用防止教育の充実を図るために、教職員や薬剤師を対象とした薬物乱用防止教室講習会を開催しました。

③食育の推進

■栄養教諭を中心とした学校での食育の推進

栄養教諭の指導の下、県内2地域の児童が互いの特産物や郷土料理を紹介したり、食材・食文化について学ぶ交流学习を行いました。県内4ブロックで栄養教諭による授業力向上のための研究会を開催し、実践事例集を作成しました。

■「おいしい地場産給食」の実現

子どもたちから好評を得たメニューを学校給食調理員が相互に紹介し合う「調理従事者研修会」や、ふるさと知事ネットワーク参加13県が交換した郷土料理のレシピによる学校給食を実施するとともに、児童生徒と学校栄養士が共同で開発したオリジナルメニューを発表し合う「学校給食調理コンテスト」を実施しました。

プロの調理師と栄養教諭による地場産物を活用した「しあわせ元気給食」のメニュー開発を行いました。

■食育推進に向けた家庭・地域への啓発

「ふくい味の祭典」、「スポーツフェスタ」、「学校給食展」で県内地域の特産物や郷土料理を紹介したり、栄養教諭による地場産物を活用した学校給食レシピや学校給食調理コンテストの様子を展示したりするなど食育の取組みを紹介しました。学校給食展に併せ、県庁食堂で地域の方に学校給食を味わう機会を設けました。

3 生徒指導・教育相談体制の充実

①不登校対策の充実

■未然防止に重点を置いた福井型不登校対策の推進

「福井県不登校対策指針」や「不登校対策取組事例集」を活用した未然防止策を進めるとともに、教員による支援、助言の充実を図るため、小・中学校教頭を対象にして7月と1月に学識経験者による不登校対策研修会を開催し、小中学校間の連携など未然防止の強化を進めました。

■**スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの効果的な配置**

小学校45校、全中学校74校、定時制高校にスクールカウンセラーを配置し、児童生徒や保護者等のカウンセリングを行うとともに、全市町と定時制高校にスクールソーシャルワーカーを配置して家庭の問題等児童生徒を取り巻く環境の改善を図りました。

■**保幼小・小中・中高連携の推進**

保育所・幼稚園と小学校の円滑な接続を推進するため、県内5小学校区をモデル校に、地域の実情に対応した具体のカリキュラムを作成し、実証しました。

モデル校区内の保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の相互理解を深め、小学校教諭の「一日保育体験」を実施したほか、幼児教育の基本や小学校1年生の教科書を学ぶ講座を開催しました。(11回約360名参加)

②**生徒指導・教育相談体制の充実**

■**問題行動の未然防止**

インターネット上の有害環境に関する最新情報を電子メール(メールマガジン)で小・中・高校に提供し、受信した学校は緊急メール配信システムや保護者だより等により保護者に周知し、家庭内でのネット教育を支援し、青少年の非行や被害を防止しました。(年50件配信)

児童生徒の問題行動を未然に防止するため、全市町において問題行動地域対策会議を定期的開催し、学校と関係機関が現状と対策について協議しました。「いじめ対策委員会」の常設やいじめ認知後の「いじめ対応サポート班」による迅速な対応など、「いじめ問題対応の手引き」に則ったいじめ対策を行ってきました。

いじめ防止対策推進法の施行に伴い、「思いやりや助け合いの心を持って行動できる」子どもを育てる教育やいじめ防止等の具体的施策、組織の設置などを含めた本県独自の基本方針を策定し、全県的ないじめ対策の体制を整えました。

■**教育相談体制の充実と関係機関との連携強化**

学校においては、個別面談や生活アンケート調査等を定期的実施し、児童生徒の悩みや不安を早期発見、早期解消に努めるとともに、学校では話せない心の悩みの解消を図るため、24時間電話相談の窓口を周知するカードを県内すべての児童生徒に配付しました。学校・警察連携制度等を活用するなど、関係機関と連携して、問題行動の早期対応や再発防止に取り組みました。

6月と10月には体罰について部活動指導者向けの研修会を実施しました。

基本目標 3 信頼される学校づくりの推進

1 学校マネジメント改革の推進

① スクールプランの達成と教職員評価システムの構築

■ スクールプランの充実

前年度の学校の自己評価、学校関係者評価に基づいて検証した結果を、新年度のスクールプランの改善に生かし、引き続きホームページでの公表を行いました。

活力ある学校づくりを進めるため、教職員評価システムの面談を通じて、校長と教員がスクールプランの内容・意義および達成に向けた意識が共有化されたことにより、教員が1年間に取り組む目標がスクールプランを反映した、より具体的なものになりました。

■ 教職員評価システムによる活力ある学校づくり

頑張っている教職員を支援することにより、教職員の士気を高め、教育活動の活性化を図るため、教職員の給料や諸手当等の在り方を見直し、それぞれの職務に応じてメリハリある教員給与体系を具体的に検討しました。

■ 教職員がやりがいを持って児童生徒と向き合える環境づくり（教職員の多忙解消）

庁内にワーキンググループを設置し、校種別・規模別に具体的な業務改善等について検討しました。

平成24年度で整備を完了した県立学校情報ネットワークの適正な管理に努めるとともに、学校現場の要望を聞きながらシステムの改善等に取り組み、教職員の業務効率化や負担軽減を図りました。

小中学校事務共同実施に関して、連絡会議等で各市町の情報を交換する中で、会計処理や名簿様式統一等を行うことで、教員の事務負担を軽減させました。

■ 教職員の心身の健康保持

健康診断や人間ドックについて、推奨の通知や健康に対する意識向上に関する記事を広報誌に掲載し、受診率アップを推進しました。メンタル面の健康保持のため、ライフコンサルタントやメンタルヘルス相談等の相談事業を実施するとともに、メンタルヘルスセミナーでは、ラインケア研修に力点を置き、所属で中堅的な役割を担う教職員に対して、心得ておきたいメンタルヘルスの手法等について研修を深めました。

② 部活動改革の推進

■ 運動部活動ガイドラインの策定

文部科学省が策定した「運動部活動での指導のガイドライン（平成25年5月27日）」の周知徹底を図るため、研修会を開催し、適切かつ充実した運動部活動の運営がなされるよう、学校全体計画を全中学校、高校から集約しました。

■ 複数校での合同部活動や拠点校方式の導入

中学校の全競技で大会への複数校合同チームが出場できるように参加を促し、夏季大会では4競技20校14チーム、秋季大会では5競技24校17チームで合同部活動を実施しました。

■ 運動部活動と総合型地域スポーツクラブとの連携促進

総合型地域スポーツクラブが14市町で24クラブが設置され、運動部活動の指導者との連携が進んでおり、クラブへの中・高校生の参加やクラブ指導者による部活動指導を進めました。

■ 地域における文化部活動の発表の支援

子どもたちが一流のステージで発表する機会を提供する「ワークショップフェスティバル」などを開催しました。（参加した子どもの数 約74,000人）

③学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

■コミュニティスクールの機能向上

県内全ての小・中学校に設置されている「地域・学校協議会」を核として、地域人材を活用した学校ボランティアの導入や、学校開放や授業公開等の開かれた学校づくりを進めました。

■中学校区内での総合的な学校応援体制の整備

県内全ての中学校区において、「学習指導」「生徒指導」「地域連携」を柱とした児童生徒の交流や教員研修などを実施し、小中連携の取組みを始めました。

■オープンネットワーク教育の推進

若狭高校にて福井県立大学教授による出張授業を実施しました。農業系高校では、農業試験場の研究員等による出張授業を実施しました。1月には、伊藤忠商事会長による特別授業を母校である若狭高校で実施しました。

福井地方気象台と連携した専門性の高い理科授業を、一乗小学校で実施しました。「百葉箱」が老朽化している小学校が多いことから、県内の工業高校（武生工業高校、敦賀工業高校）の生徒が、県産材を活用して百葉箱を製作し、越前市内小学校2校と敦賀市内小学校2校に贈呈しました。

■家庭等への情報発信の推進

インターネット上の有害環境に関する最新情報を電子メール（メールマガジン）で小・中・高校に提供し、受信した学校は緊急メール配信システムや保護者だより等により保護者に周知し、家庭内でのネット教育を支援し、青少年の非行や被害を防止しました。（年50件配信）

インターネットの利用についての注意事項を生徒や保護者がともに学べる教材を作成し、中・高校の新入学生登校日に配布し、家庭内でのネットルールづくりなどを支援し、青少年の非行や被害の防止に努めました。

小学校において、平成24年度から運用している「算数Webシステム」の中に、保護者・児童向けに、課題となっている問題や領域についてのワンポイントアドバイスを定期的に配信しました。児童の算数に対する興味や関心を喚起するためのハイレベルな問題を毎週一回配信し、保護者とともに考える機会を設定しました。

④小規模校での教育の振興

■学校間・学校種間のネットワークの強化

小規模校の教育環境の充実を図るため、福井市（国見小・長橋小・殿下小）および敦賀市（常宮小・西浦小・東浦小・赤崎小）において合同授業をそれぞれ10回実施し、6月に国見小で研究大会、9月に常宮小において公開授業が行われました。

■少人数学習集団の特長を活かした授業方法等の研究や研修の充実

教育研究所において、へき地複式教育研修講座を開講し、複式授業の在り方と複式の授業づくりのポイントについて実践発表などを行いました。

⑤小・中学校の統廃合への適切な対応

■資格小・中学校の統廃合のための支援策の充実

学校・学級の適正規模化の課題について検討を行いました。児童数100人以下の小規模小学校が70校あり、適正規模化について、市町教育委員会と連携し、地域住民の理解を得ながら進めていきます。

■空き校舎活用への支援

市町に対し、ホームページ等を通じた空き校舎の活用事例等の情報提供や、空き校舎活用のための支援制度を周知し、坂井市の幼稚園施設の放課後児童クラブへの転用や、旧竹田小学校の体育館の社会体育施設への転用等を促しました。

2 県立高等学校の再編整備と魅力ある学校づくり

①県立高等学校の再編整備と魅力ある学校づくり

■学校再編による教育環境の充実

若狭地区では、若狭高校に海洋科学科を設置し、県立大学海洋資源学部との連携等により海洋分野に関する専門性の高い教育を進めました。若狭東高校には新たに商業系学科を設置し、熊川くずの加工・販売などといった実業を通じて、学科の枠を超え、生徒の志望する進路に応じた教育の仕組みを設けました。

坂井地区では、坂井高校を設置し、平成26年4月の開校に向け、地元企業や研究機関等の意見を踏まえ学科の枠を超えたカリキュラムづくりや長期実習の準備、必要な施設・設備の整備等を進めました。

平成25年11月に、定時制制度改革検討会議を開き、定時制の現状や夜間部の役割等について意見交換をしました。また、少子化に対応した適正な学級編制や入学定員、分校等のあり方の検討を始めました。

■普通科系高等学校における進学指導の向上

平成27年4月に高志高等学校に開校する併設型中高一貫教育校について、カリキュラム編成などの検討を進めるとともに、平成25年8月から9月にかけて、県内5地区で7回説明会を開き、保護者・児童約870名が参加しました。

難関大学への進学を志望する高校1年生を対象に土曜チャレンジセミナー、2年生を対象に土曜チャレンジセミナーおよび春期セミナー、3年生を対象に入試直前冬期セミナーを開催しました。中学と高校を通じた数学の体系を学ぶための鳥瞰図を作成し各県立高校で活用しました。

■魅力ある職業教育の推進

職業系高校では、地元企業の代表者等など産業界からの意見を授業やカリキュラムに反映させたほか、民間の技術者による技術指導や企業の生産現場における実習など、地域産業界と連携した職業教育の充実を図りました。

夏季休業中の長期企業研修（10日間）や新たに農業法人等による農業現場での長期実習を行いました。

■定時制・通信制教育の充実

3年間での卒業を可能とするため、単位制の特性を生かして学びやすい教育課程を編成しました。

多様な課題を抱える生徒たちに対応するため、スクールカウンセラー3名、スクールソーシャルワーカー2名を配置するとともに、5校に配置している非常勤の養護教諭の勤務時間を、生徒が登校している時間まで（18時から20時へ）延長しています。授業内容について、若手教員の授業力向上を進めるため、年間を通じて「若手教員授業力向上塾」を開催し、指導力のある教員が指導・助言を行いました。

3 私学教育の振興と支援の充実

①特色ある私学教育の振興

■魅力ある学校づくりや特色ある教育活動等への支援

県内私立高校が生徒や保護者にとって魅力ある学校となるよう、食育・環境教育といった教育の質の向上を図る取組みや特色ある学校づくり、部活動の全国での活躍など、意欲的な取組みを支援しました。

■保護者の負担の軽減

授業料と国の就学支援金の差額に対し私立高校が減免を行った場合、世帯の所得に応じて、全額～1/3の割合で助成を行いました。国の就学支援金の対象外である実習費、特別授業料等に対して引き続き助成を行いました。

■教育環境の充実

耐震化が早期に実施されるよう、幼稚園や高校の耐震補強工事や改築工事に対し、県独自に助成を行いました。天井部材や壁材等の非構造部材の補強工事にも引き続き助成を行いました。

■公私共通の諸課題に対する対応

公私共通の課題であるいじめの防止対策について、福井県いじめ防止基本方針の策定など、公・私立間で連携して対応しました。

■私立学校における経営の健全化の確保

私立幼・小・中・高校・専修学校の教育条件の維持向上、経営の健全化を図るため、各種の教育振興補助金により、各学校の人件費等、経常的経費等を支援しました。

4 安全・安心な学校づくり

①学校施設の耐震化の推進

■学校施設の耐震化の優先実施

小・中学校施設については、県独自の補助により、市町の負担軽減を図ることで耐震化を促進し、耐震化率は84.7%から89.8%に向上しました。県立学校については、9棟の耐震補強工事を行い、耐震化率は90.1%から93.1%に向上しました。

学校施設の耐震化とともに、体育館の吊り天井や照明器具などの非構造部材の落下対策についても平成27年度末までに整備する方針をまとめました。

②安全対策の充実

■学校安全体制の整備

本県が独自に作成した「学校防災マニュアル」を活用して、学校の防災体制の見直しを進めました。関係機関と連携し、通学路合同安全点検を実施し、児童生徒の登下校の安全確保に努めました。

■安全教育の充実

小・中・高校・特別支援学校における防災担当教員を対象とした「防災教室講習会」(約350名参加)を開催し、地震・津波災害への対応、地震時の構造物落下被害防止など学校における防災教育の充実を図りました。児童・生徒に災害に対する備えや対処行動等を学習させ、自らの命を自ら守る能力を身につけるための地震や津波災害に対応した避難訓練と、地震・津波のメカニズムや教室や家庭での安全対策などを学ぶ防災教育の授業を行いました。

■地域の防犯団体等との連携の促進

通学路交通安全対策連絡会議において、各市町・関係機関における安全対策の実施状況の報告、冬季の通学路での事故防止に向けて、積雪時の安全点検の実施および通学路の除雪対策を確認しました。

■安全で明るい通学路の整備

児童生徒の下校時の安全を確保するため、市町が新規に実施するLED防犯灯(約480基)の設置に対して支援を行いました。

③防災教育の充実

■防災学習の推進

県が独自に作成した「防災教育の手引き」と「防災教育の指導教材」を参考として、防災教育推進期間を中心に防災教育を進め、教員を対象とした防災教育講習を実施しました。

■避難訓練の実施

緊急地震速報装置を活用した避難訓練や、防災アドバイザーの助言をもとに、避難経路や避難場所を見直し、より安全に避難する訓練を実施しました。

基本目標 4 家庭・地域の教育力の向上

1 家庭・地域の教育力の向上

① 家庭の教育力の向上

■ 「親育ち」支援の充実

保育所・幼稚園に通園する園児の保護者が一日保育体験をして、保育士・幼稚園教諭が指南役となって、家庭で実践する機会を通して、我が子の園での様子や園への理解を深めました。

家庭教育アドバイザーが市町3歳児健診事業や子育て支援センター、公民館に出向き、未就園児の保護者への家庭教育の意識醸成に努めました。

家庭教育支援チームおよび市町教育委員会家庭教育担当者対象のネットワーク研修会を2回実施しました。家庭教育支援者として活動できる人材の養成およびそのスキルアップのための「子育てサポーターステップアップ研修講座」を、2会場で各8講座開催し、修了者約60名を登録しました。

家庭教育講座の企画を支援するために講師リストを作成し、PTA活動や公民館活動等での活用を促しました。平成22年度から作成してきた参加型学習講座の手引きとなるテキストに改善を加え、ファシリテーターが話す言葉を具体的に示すなど、「統合版きずな」として、これまでの30講座を1冊にまとめました。

5月から10月まで、家庭教育支援テレビ番組「ぶらり子育てしゃべり隊」を放送しました。家庭教育電話相談「すこやかダイヤル」を週3日（年間140日）開設しました。

■ 保育所や幼稚園と連携した家庭の教育力の育成

保育所・幼稚園の園児の保護者を対象に一日保育体験を実施し、家庭における育児・教育に関する助言やノウハウの提供を行いました（31園 約1,400名）。

園での保護者会等において、幼児とのコミュニケーションの機会を増やすグッド・トイや絵本の遊ばせ方を体験する出前家庭教育講座を開催しました。

■ 「子育ての知恵」の継承

福井の文化や担い手を育成するため、次代を担う子どもたちが県内の文化活動団体とともに地域の伝統文化や優れた芸術文化活動に参加し、身近な地域で芸術文化活動に参加できる「子ども文化塾」などを開催しました。

（参加した子どもの数 約74,000人）

■ 子育て支援機能の充実

一日保育体験を通して、育児や教育に関する不安や悩みを持つ保護者に対し、保育士や幼稚園教諭が助言を行いました。

保護者や祖父母等を対象にグッド・トイや絵本の素晴らしさを体感し、家庭教育の意識を高める講座を開催しました。

②地域の教育力の向上

■地域づくり・人づくりの推進

地域の公民館、婦人会、子ども会、NPOなど約60団体等から課題や意見を聴取した内容を踏まえ、社会教育団体や公民館の代表者で構成する社会教育活性化会議を4回開催し、地域づくり・人づくりのための現状や新たな活動について情報共有や意見交換を行う場を設け、各社会教育団体等の活動を支援しました。

■地域による学校支援の充実

県内全ての小・中学校に設置されている「地域・学校協議会」を核として、地域人材を活用した学校ボランティアの導入や、学校開放や授業公開等の開かれた学校づくりの取組みを進めました。

青少年教育施設において、県内外約320団体が自然や産業など地域資源を活用した活動を実施しました。

芦原青年の家では、福井工業大学と連携して星の観察会を実施するなど施設周辺の協力者との連携充実に図りました。

■放課後子どもクラブの拡充

高学年の受け入れに伴う既存施設の改修費等の軽減や運営費の助成などにより、子どもが文化活動や読書・宿題等を行うことができる活動場所の確保に努める市町を支援し、「放課後子どもクラブ」の数は382箇所となりました。

基本目標 5 生涯学習とスポーツの振興

1 生涯学習の振興

①生涯学習環境の充実

■多様で魅力ある講座の提供

福井ライフ・アカデミー講座の夜間講座や土日開催講座を増やしたり、現地講座を実施し主催講座で約5,200名(24年度約5,100名)の方が参加しました。親学講座では、家庭教育グループと連携し若い年代の受講者を増やすことができました。(ライフアカデミー全体の40歳代以下の受講割合が16%、親学講座は63%)

■ボランティア講師の活動に対する支援

県民講師による友愛塾51講座が開催され、延べ約1,700人が受講しました。

■在宅受講システムの整備

インターネット放送局で、講座を公開するために、著作権、経費、システム等の課題について検討しました。

2 生涯スポーツの振興

①スポーツを通じた健康づくりの推進

■スポーツを通じた県民の健康・体力の向上

県民スポーツ祭では「親子体験スポーツ祭」において、ボートやスキーなど新しい種目を取り入れ、体験教室を拡大しました。大会チラシを学校に配付したほか、新聞や県の広報誌を活用した広報を進め、年齢を問わず誰でも参加できる「交流の部」の参加者を増やし、多くの方にスポーツに参加できる機会を提供しました。

■スポーツを身近にする環境づくり

総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、福井市と坂井市における2クラブの準備委員会を支援したほか、クラブ未設置の3町に対して創設のための働きかけを行いました。

広報番組で、福井で活躍している競技団体や県民スポーツ祭、総合型地域スポーツクラブを紹介し、国体に向けた選手強化や身近に行えるスポーツ環境等の情報を提供しました。

■スポーツイベントの誘致・開催

常陸宮同妃両殿下をお迎えし、平成26年1月26日から3日間「常陸宮賜杯第64回中部日本スキー大会」を、スキージャム勝山で開催しました。7県の選手・役員約500名が参加する中部日本最大のスキー競技会として式典、競技、ご視察等を含め、円滑な大会運営に努めました。

国体準備委員会を国体と全国障害者スポーツ大会を準備する準備委員会に改編するとともに、全国障害者スポーツ大会の開催基本方針を定めました。全国障害者スポーツ大会の13の正式競技すべての競技会場を選定し、これにより、両大会のすべての正式競技の会場が決まりました。

②平成 30 年の福井国体に向けた競技力の向上

■選手の育成と強化

競技力向上基本計画に基づき、福井国体に向け、計画的な選手強化を実施しました。

少年種別選手の育成・強化を進めるため、本年度から小学・中学生 491 名、中学・高校生 583 名を「チームふくい」強化指定選手に認定し、競技別に全国大会等で指導実績のある優秀なコーチから直接指導を受け、強化合宿を充実しました。

オリンピック選手などを育てたスーパーアドバイザー 26 名を定期的に強化事業に派遣し、競技力の向上と指導者の資質向上を図りました。

運動部活動では、重点強化校に高校で 19 競技 33 部、中学校で 5 競技 7 部、強化推進校に高校で 25 競技 60 部、中学校で 17 競技 68 部を指定して選手強化を進めました。次年度に向けて新たに重点強化校を高校で 9 競技 10 部、中学校で 6 競技 8 部、強化推進校を高校で 4 競技 6 部、中学校で 9 競技 23 部を指定し、少年選手の育成強化を進めます。

■指導者の育成と確保

日本体育協会等が主催する公認指導者資格を取得するための研修会参加を支援し、指導者の育成を図りました。県外の優秀なコーチを招いた強化合宿等に県内指導者が参加し、資質向上に努めました。今後は、専門指導者のいない高校に特別強化コーチを配置し、指導者の確保を進めます。

■「1 県民 1 参加、1 スポーツ」の環境の整備

県民スポーツ祭では、親子体験教室を 12 種目実施、インディアカ・3B 体操など気軽にスポーツに親しむ場の提供や、ライフル射撃や弓道などの国体正式種目を親子で体験してもらうことで、未普及競技への興味・関心を高め、福井国体に向けた選手発掘にも取り組みました。

マスコットキャラクターのデザインおよび愛称を決定しました（愛称は「はぴりゅう」）。広報用横断幕を小・中学校、高校、県・市町村庁舎など県内 357 か所に掲出し、国体の周知に努めました。

基本目標6 心豊かな文化の振興

1 身近に文化を感じる環境づくり

①「見る」から「楽しむ」「参加する」文化へ

■身近に芸術を親しむ場の創設

福井県民総合文化祭の実施など、身近に芸術文化に触れる機会を充実しました。

■身近な文化を見つめ直し後世に継承

各地に伝わる「祭り・行事」（無形民俗分野）の詳細調査を実施しました。その中から、1件（西津七年祭）を県指定無形民俗文化財に指定しました。

庭園（名勝分野）では、平成24年度に特定調査を実施した三田村氏庭園を県指定したほか、新たに龍泉寺庭園の特定調査を実施し報告書を作成しました。

平成23年度に報告書を作成した、白山信仰古文書の瀧谷寺文書1件を県指定有形文化財（古文書）に指定しました。

平成23年度に県が文化財指定した「荻野家住宅」（建造物）が国指定の重要文化財となりました。県と越前市が協力して調査をしてきた「越前和紙の製作用具及び製品」が国指定の重要有形民俗文化財となりました。

■ふるさとの歴史・文化の研究

県立歴史博物館において、県内各地の祭りを、面などの道具を通じて紹介する企画展や、重要文化財7件を始めとした敦賀西福寺が所蔵する文化財の公開展を開催しました。

学校の授業として文化施設の企画展を観覧する際に児童・生徒・引率の観覧料が無料になる「学校鑑賞会」を実施し、子どもたちが歴史・文化に触れる機会を充実しました。

あわら市の榎山遺跡の発掘調査により、大量の製塩土器と共に、製塩炉が検出され、嶺北地区での古代の塩作りの資料が得られました。

福井城跡山里口御門の調査により、門の規模や構造に関連する遺構を検出し、復元に向けた多くの資料を得ました。

越前焼窯跡について試掘調査や文献調査を実施し、新たに1基の窯跡を発見しました。

「福井城跡」、「横枕遺跡」、「首根田遺跡」等埋蔵文化財の発掘調査報告書10冊を刊行しました。

②文化施設をもっと身近に

■住民参加型の企画運営

ボランティアによる作品解説会の開催や展示監視業務への協力など、住民参加による文化施設の運営を行いました。

■子どもの創造力を育む美術館

夏休みに親子で鑑賞・創作を体験するキッズミュージアムを開催したほか、学芸員が館蔵品を学校で展示・解説する授業を行いました。

■福井ゆかりの人物や福井の歴史の発信

こども歴史文化館において、福井ゆかりの先人として、新たに益田縄手、ジョージ・アルノルド・エッセルを、さらに達人として、越前焼、越前和紙を使った人形制作など福井の伝統産業に関わる、司辻光男、高橋輝代や、かるたクイーン山崎みゆきらを紹介するパネルを追加しました。

文学館、美術館などとの連携を図りながら、橋本左内や岡倉天心を特集した展示を実施するとともに、「これき人物シリーズ5 福井の先人たち近現代」を発刊しました。

県立歴史博物館において、県内各地の祭りを、面などの道具を通じて紹介する企画展や、重要文化財7件を始めとした敦賀西福寺が所蔵する文化財の公開展を開催しました。

学校の授業として文化施設の企画展を観覧する際に児童生徒・引率教員の観覧料が無料になる「学校鑑賞会」を実施し、子どもたちが歴史・文化に触れる機会を充実しました。

2 文化教育の推進

①文化教育の推進

■すべての子どもたちが一級の芸術・文化に触れる機会を拡充

県立音楽堂でのオーケストラの鑑賞や、学芸員による博物館での体験型授業、学校での出前授業など、子どもたちが芸術・文化に触れる機会を充実しました。

学校の授業として文化施設の企画展を観覧する際に児童・生徒・引率の観覧料が無料になる「学校鑑賞会」を実施し、子どもたちが芸術・文化に触れる機会を充実しました。

歌う機会が少なくなっている童謡・唱歌のすばらしさを伝え、子どもたちの豊かな心を育むため、由紀さおりさんによる「童謡で伝える会」を県内保育所・幼稚園9か所で開催し、約2,530名の親子に童謡・唱歌に親しみました。

■地域の文化活動家からの学び

文化インストラクターを講師とする芸術文化体験講座の開催など、子どもたちが地域の文化活動家から身近に芸術文化を学ぶ機会を充実しました。

②文化の創り手・演じ手の育成

■地域グループなど文化団体（活動者）の支援の充実

若手活動者による芸術・文化活動や地域の文化資源を活用したまちづくり、次世代育成などを行う文化活動団体に、きめ細やかに支援を行いました。

■子どもたちの文化活動の質の向上

中学・高校の部活動などにおいて、一流の芸術家から子どもたちが直接指導を受ける機会を充実しました。

■次世代アーティストの育成

優れた弦楽器奏者を推進校（社北小、朝日中、雲浜小、社中など）に派遣することをはじめ、県文化振興事業団との協力により、国際的バイオリニスト戸田弥生氏との面会や、NHK交響楽団四重奏団の訪問演奏会（雲浜小）など、一流の芸術家と直接ふれあう機会を設けました。

3 「文字の国 福井」の推進

①「文字の国 福井」の推進

■文字文化の普及

今年度に創設した「白川静漢字教育賞」には、全国26都府県から62名の応募があり、最優秀賞2名、優秀賞1名、特別賞1名を表彰しました。

県内各地（県立図書館、県立科学児童館、若狭図書学習センター、生活学習館、芦原青年の家、アオッサなど）で白川文字学関係や漢字教育の授業風景のパネル展示を実施しました。アオッサでは「文字講話」の公開放映も実施しました。

平凡社から出版した「漢字解説本」は8刷4万5千部を発行しました。

各小中学校の先生に対して、白川文字学に加えて幅広い漢字・国語の素養（指導力）が身に付く講演会・研修会の案内を出し積極的な参加を呼びかけました。

■県内外への発信

「白川静漢字教育賞」の表彰式で受賞者による実践報告が行われました。成果を福井県のホームページで掲載しました。

漢字教育士による東京都の出前授業「遊んで学ぶ 漢字の世界」では30名が参加しました。小学校で実施している県独自の漢字学習を中学校や高校へ継続して発展させるために「漢字教育素材集」（試案）を作成し、各学校に送付、教育研究所の教材支援システムに掲載しました。

■ゆかりの作家や詩人の作品に親しむ「ふるさと文学館」の整備

県内外の文学関係者からの助言・提案を参考に基本・実施設計をまとめ、平成26年1月から建築改修工事に着手しました。

福井ゆかりの作家、福井県を舞台とした作品に関する直筆原稿等の貴重資料約590点を収集するなど、平成27年2月に県立図書館内に開設するための準備を進めました。

VI 有識者からの意見

○東京大学大学院教育学研究科教授 秋田 喜代美

平成26年度全国学力・学習状況調査においても、福井県はこれまで同様、小中学校ともに高い学力水準を維持していることが報告された。これらは、変革を進め、効果的な教育行政の推進に福井県教育委員会が努めていることによる結果と考えられる。

平成25年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関してご報告を受けるとともに、私自身が継続的に福井の学校の公開研究会や研修等に10年以上毎年関わらせていただき、福井県教育研究所の機能強化検討委員会にも参加させていただいた経験を踏まえ、見解を記すことにしたい。

1 福井県教育委員会の会議開催等の状況に関して

福井県教育委員会では、年19回の教育委員会会議が開催されるとともに、教育委員が学校視察に出向き実際の現場の実態を把握するとともに、知事や公安委員、校長会等とも意見交換により対話を深めながら、福井の教育の方向性を多面的に考えようとされておられる様子を読み取ることができる。今後も、首長部局と連携を取りつつも、教育委員会が自律的に県の教育のあり方に対して長期的展望をもって、さまざまな施策を安定的に実施検討していくことが期待される。

2 教員採用試験等の改善

21世紀に求められる教育の姿を実現していくためには、他者と協働し新たな考えを生み出したり高次で複雑な現実的課題を克服していく学校力を、教員が互いに高めていくことができるような資質をもった人材の採用と育成、研修の保障が必要である。25年度実施の試験より、福井県では従来の一括募集から、校種・教科別募集、複数校種・教科併願を可能へと変更し、1次選考ですべての受験者が専門試験を受験するようにするとともに、2次選考でも集団討論に変更し、面接重視へと採用試験方法の改善を大幅に図っている。これは、18年を見通した教育、また教科内容の見識に関する専門性重視の方向を打ち出し、今後の学校教育を見通してその教育の実現に必要な人材を採用する試験方法への変革を大胆にはかったものととらえることができる。この採用試験法の変革が実際にどのような効果をもたらしたと評価できるのかを継続的に追跡し自ら評価していくことに期待したい。

3 教育関係施策の実施

平成23年度から5年間の福井県教育振興基本計画に基づき、6つの目標の推進のために、本年度もバランスよく多面的な施策の実施がなされている。特に重点的に進めら

れた施策を中心に意見を述べたい。

「確かな学力の育成」のためには、教育課程の一貫性を大事にし、各学校種での教育の質向上がなされ、積み上げられていくことが重要である。この点で、公開授業や授業研究の実施、全国学力・学習状況調査とあわせて福井県独自の学力調査等に関して結果を分析する等、授業改善に毎年地道に取り組んでおられることは高く評価される。そして、これらの地道な努力が、福井の学力の高さ維持に大きな役割を果たしていると考えられ、今後もこの点での充実発展が期待される。

また、「福井型18年教育」推進のために中高接続が検討されており、新たな併設型中高一貫教育校の開校も大いに期待できる。18年教育を考えるならば、中高一貫教育の推進と共に、現在国でも議論がなされてきている動向をふまえ義務教育としての小中一貫教育のさらなる推進も考慮しつつ、小中、中高の一貫性を推進していく検討も必要になっていくであろうと考えられる。18年教育という意味では、福井県は、幼児教育部分と小学校教育部分の保幼小の連携接続に関してスピードアップを図りつつ実践・評価を進めていく必要がある。先行する自治体の取り組みも参考にしながら、福井県ならではの質の高いカリキュラムや研修実施につながることを期待したい。本年度試験的に実施している保幼小接続カリキュラムについて、次年度以降小学校区で周知し実施定着へ向けての強力な推進が期待される。

教育課程や制度の一貫性ととともに、教員の指導力こそ教育の質向上改善の鍵である。この点で福井県は小中学校だけではなく、高校においても教員同士の学びあいを促進し、そのための名人教師によるDVD作成配布や、他県派遣など新たな取組を打ち出し、またさらにICT機能を活用した21世紀型の新たな授業スタイルを取り込み、授業改善を進めようとしている。このような先進的な取組を教育委員会が積極的に推進していくことは高く評価できる。しかしそれらが、教員の多忙感を生み出すのではなく、教員の指導の支援ツールの開発となるよう、教員の自律的主体的な授業改善の道も重要である。この点で、福井では教員の主体的な授業改善のための研究会の推進がなされるなど、教員の主体性を生かす取り組みと委員会主導で行う変革がバランスよく今後ともおこなわれることが求められよう。

また、福井県ゆかりの人物や地域の文化を大事にした英語教育、道徳教育の教材開発に取り組み、文字の国福井も推進し新たに白川静漢字教育賞の創設やふるさと文学館の準備などに取り組んでいる。当該賞には福井県内だけではなく、県外も含め60件を超える多数の応募が初めてにもかかわらずあったことを考えると、今後も地域の独自性を生かした新たな試みの推進も求められるだろう。

しかし、一方では授業時数の関係等で、子どもたちが地域のことを検討する総合的な学習の時間数の減少や、長期宿泊体験活動の減少など、子どもたち自身が地域に関わり体験を通して地域を学んだり、子ども同士の間を保障する体験活動は減少してきている。これらの点に関しては今後、福井に愛着を持ち、その文化を学ぶ子どもたちの育

成という点からさらに検討をしていく必要もあるだろう。

上記にあげた点以外においても、今回の点検報告書を拝見すると、きめこまかく多方面で教育の改革推進が確実に進められていることを読み取ることができる。これらは、福井県の教育の推進に寄与されてきている教育委員会の各部署での尽力と協働が結実したものと考えられる。また報告書に関して、昨年度に意見として、点検と同時に自己評価という点で取り組み実績の自己評価の記載が必要ではないかとの指摘を行った点もさっそく本年度から改善されている。ぜひとも今後とも「教育県 福井」の新たな試みと地道な歩みに大いに期待したい。

○ 元 福井県PTA連合会 会長 山本 久徳

まず、全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）および全国体力・運動能力、運動習慣等の調査（全国体力テスト）の結果が全国トップレベルを維持していることは、教育委員会をはじめ子どもたちを支える教職員、関係皆様の多面的な取り組みと努力の賜物と心より敬意を表します。

教育委員会会議の運営については、年間19回の会議開催の中で53件の附議事項の審議、知事との意見交換6回、県立校長会との意見交換など活発な会議開催を展開して充実した運営が行われており、多くの行事への参加も含め委員会が重要な責務を果たしていると評価します。

平成23年度に福井県教育振興基本計画が策定され「夢や希望に向かって、豊かな心でたくましく生きる力を育む 教育県・福井」の基本理念の元、6つの基本目標を掲げさらに、その目標に向けて9つの重点項目が展開されています。その中の「福井型18年教育」では、生涯にわたる学習の基礎をつくる幼児期の充実とともに保育園、幼稚園、小学校といった関連する校区などの連携により成長の先を見据えた家庭教育意識の高まりとの相乗効果によって生まれてから高校までの円滑な教育環境が形成されていくことを願います。

また、社会と深くつながる高校での教育充実に期待するとともに大人や企業も子どもたちの夢・希望を育てていく意識を強く持つことが必要と感じます。

年齢に応じたキャリア教育を段階的に推進し職業観を少しずつ着実に育てていくため小学校版・中学校版「私の夢カルテ」を小中学校それぞれ3年間活用していく意義は大きく、普段の会話のなかで折に触れて活用され周知されることを望みます。

生徒への体験活動の実施、高校生による小学校への出前授業、農業法人への長期企業実習、特別支援学校での食品製造や販売実習のカリキュラム化、小学校で休み時間や放課後に1時間以上スポーツに取り組む「アクティブワン活動」推進などの新たな取り組みには、たくましく生きる力の伸展につながると評価します。多くの生徒が豊富な体験ができるようさらなる展開を願います。

教員養成と研修の面では教員採用試験の専門性、指導力を重視した大幅な見直し、全国学力テストの結果を迅速に分析し苦手克服のための指導反映、県外中高一貫教育校や大手塾への派遣による指導力向上と授業名人の模範授業を水平展開した授業の改善、「白川静漢字教育賞」創設にともなう漢字教育実践者のネットワークをいかした国語教育の向上など、いずれも福井県特有の力強い取り組みと評価します。

今後も大きく夢を膨らませようとしている子、問題につまずき悩んでいる子、様々な子どもたちの目線に合わせた取り組みの継続をお願いするとともに、学校、保護者、企業など地域全体で子どもたちを支える連携がさらに深まることを期待します。



幼児教育・家庭教育

<幼児教育>

- 福井県では待機児童がゼロであり、保育所への就園率が高い。

	国公立		私立		計	
	園数	5歳児数	園数	5歳児数	園数	5歳児数
保育所	135	2,261	136	2,958	271	5,219
幼稚園	75	972	33	939	108	1,911
計	210	3,233	169	3,897	379	7,130

保育所：幼稚園 = 7：3 （幼稚園比率 全国54.2%、福井県28.3%、都道府県別42位）

- 平成24年10月に県の幼児教育に対する支援策を示す「福井県幼児教育支援プログラム」を作成、11月に「幼児教育支援センター」を開設

〔活動内容〕

① 保育士と幼稚園教諭の共同研修等

- ・ 保育の基本を学ぶ講座 (1,350名参加)、小学校1年生の教科書を学ぶ講座 (790名参加)
- ・ 幼児教育アドバイザー2名が幼稚園・保育園を巡回訪問 (累計277回・全体の約7割)
- ・ 保育士を対象としたグッドトイや絵本を利用する講座 (約630名参加)

② 保幼小接続カリキュラム (平成26年7月試行版作成)

- ・ 接続講座に全体の約5割 (約1,600名) 参加、モデル校の中間報告会 (約400名参加)
- ・ 小学校教諭の1日保育体験 (65名参加)

③ 保護者の一日保育体験や家庭教育アドバイザーの活動

- ・ 家庭教育アドバイザー2名が3歳児健診会場等に出向きグッドトイや絵本による親子のふれあいを促進 (出前講座：約4,400名参加)
- ・ 保護者が保育所・幼稚園で一日保育体験 (78園で保護者約4,100名参加)
- ・ 平成26年8月に「家庭教育相談・応援サイト」を開設して保護者の悩みにアドバイス

④ 由紀さおりさんによる「童謡で伝える会」や知育玩具の活動

- ・ 「童謡で伝える会」 (園児・保護者約6,000名参加)、加古里子氏の絵本を園に普及
- ・ 県内8か所の子育て支援センターに地域グッドトイコーナーを設置

- 保育所・幼稚園と小学校の垣根を超えた共通のカリキュラムを整理したことで接続の柱が確立
- 今後、幼児教育アドバイザーの訪問先の拡大 (小学校や就学前健診)、
全県下での保幼小接続カリキュラムの実践 などを予定

<家庭教育>

○ 保護者の子育てや進学のお悩みに対応する「家庭教育相談・応援サイト」をインターネット上に開設（平成26年8月）

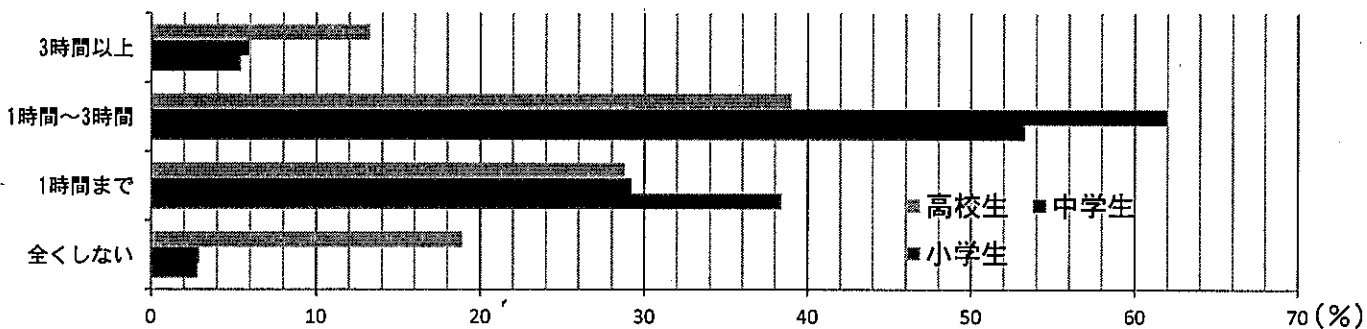
- ・ 就学前の子どもを持つ保護者に家庭における生活リズムの大切さを説明
- ・ こども園の新採用職員に対し、子どもの考えを引き出す言葉がけを助言

アクセス数 (8月～11月)	乳幼児	小学生	中学生	高校生	計
件数	1,030	802	654	446	2,932
比率(%)	35.1	27.4	22.3	15.2	100

○ 家庭教育を支援する人材向けに子育てステップアップ研修講座を開始（平成22年度～）

- ・ 平成26年度は5回開催153名参加（ほめ方・叱り方、子どもがいじめられたときの対処法など）

○ 平日の勉強時間



小・中学校教育

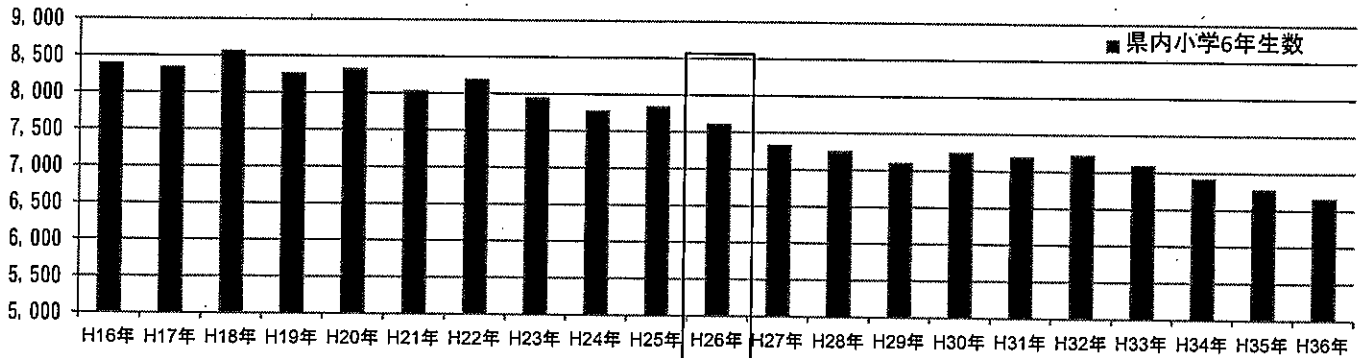
<学校数・学級数>

○ 福井県内の小学6年生は10年間で9.3%減少 (H16: 8,395人 → H26: 7,616人)

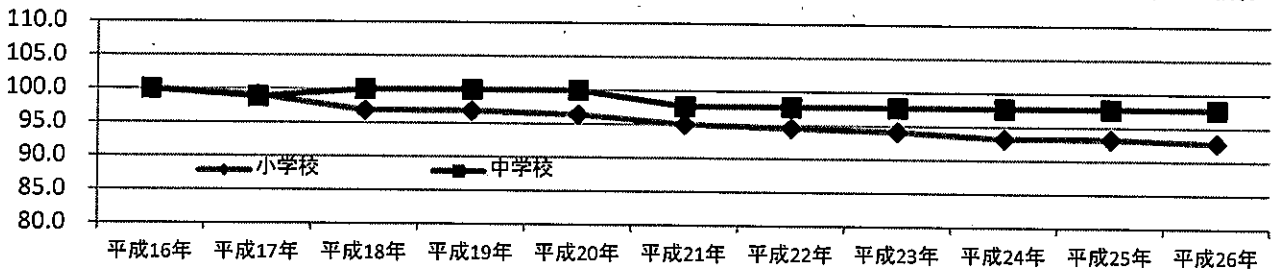
さらに10年後、小学6年生7,616人 (H26) が約6,600人 (H36) に減少見込

小学生総数は約5万1千人 (H16) → 約4万3千人 (H26)

中学生総数は約2万6千人 (H16) → 約2万3千人 (H26)



○ 小学校数は222校 (H16) から206校 (H26)、中学校数は87校 (H16) から85校 (H26) に減少



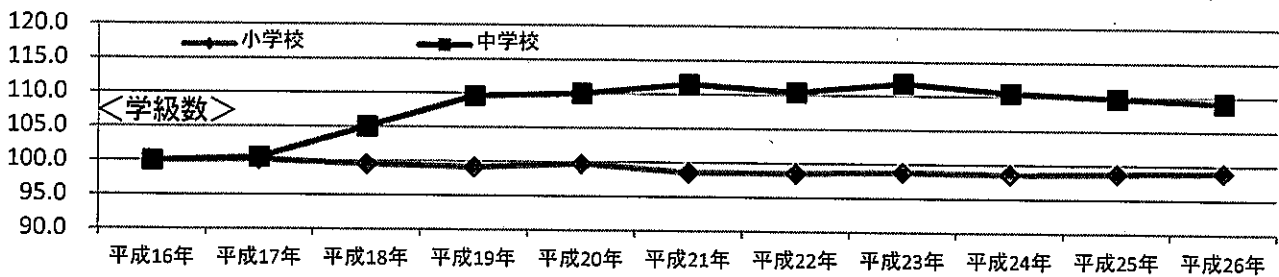
○ 平成16年度から県独自の少人数教育を実施

公立小学校学級数は1,995学級 (H15) → 1,976学級 (H26)

・ 36人以上の学級の割合 15.9% (H15) → 1.9% (H26)

公立中学生学級数は828学級 (H15) → 913学級 (H26)

・ 33人以上の学級の割合 72.1% (H15) → 0% (H26) (基準に沿って全学校に教員を配置済)



学年	元気ふくいっ子笑顔プラン				新元気ふくいっ子笑顔プラン				H24	H25	H26
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23			
小1	40						40	35			35
小2	40							40	35		35
小3	40									40	35
小4	40										40
小5	40			40	36						36
小6	39	38	37	36							36
中1	37	35	32	30							30
中2	39	38	37	36	35	34	33	32			32
中3	39	38	37	36	35	34	33	32			32

<全国学力・学習状況調査①>

○ 小中学校とも調査開始から7年連続で全国上位の成績

<小学校>合計正答率上位5県

平成26年度	合計正答率(%)
秋田県	296.0
福井県	283.6
石川県	282.9
青森県	279.2
富山県	276.6

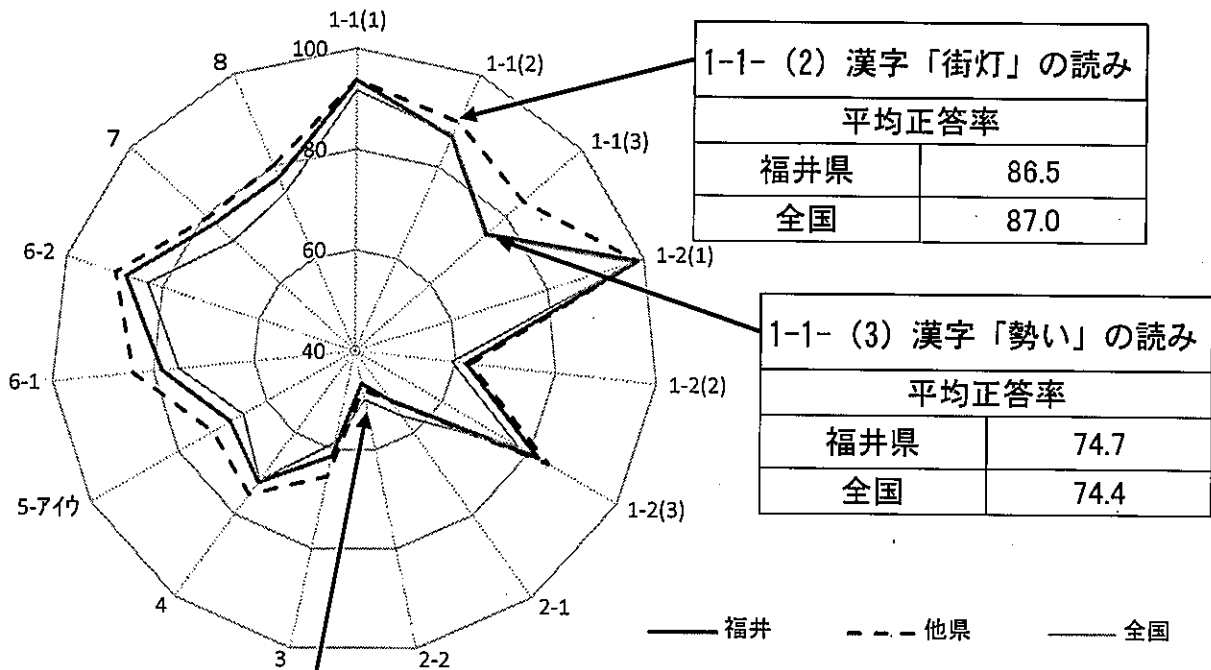
<中学校>合計正答率上位5県

平成26年度	合計正答率(%)
福井県	280.1
秋田県	278.7
富山県	272.1
石川県	269.9
静岡県	267.9

小学校正答率(%)		
	福井県	全国
国語A・B	136.4	128.4
算数A・B	147.2	136.3

中学校正答率(%)		
	福井県	全国
国語A・B	138.9	130.4
数学A・B	141.2	127.2

<設問ごとの傾向>小学校国語Aでは故事成語や漢字の読みに課題



2-1 故事成語「五十歩百歩」の使い方

平均正答率	
福井県	52.1
全国	55.8

<全国学力・学習状況調査②>

○ 授業内容をわかる度合いや学校の宿題をしている割合は高い。

<小学校>

国語の授業内容がよくわかる		
福井県		全国
37.7	3位	33.4

算数の授業内容がよくわかる		
福井県		全国
49.7	3位	44.7

家で学校の宿題をしている		
福井県		全国
87.1	22位	86.0

家で学校の授業の予習をしている		
福井県		全国
11.7	46位	16.1

算数の授業で簡単に解く方法を考える		
福井県		全国
43.3	42位	45.7

<中学校>

国語の授業内容がよくわかる		
福井県		全国
25.6	3位	22.6

数学の授業内容がよくわかる		
福井県		全国
34.3	13位	33.0

家で学校の宿題をしている		
福井県		全国
75.0	4位	63.7

家で学校の授業の予習をしている		
福井県		全国
8.2	38位	11.0

数学の授業で簡単に解く方法を考える		
福井県		全国
29.0	45位	33.6

<放課後・土曜日の活動>

- 放課後子ども教室と放課後児童クラブを一本化した「放課後子どもクラブ」を設置
放課後子ども教室：179校区155か所、放課後児童クラブ：179校区225か所を一体運用
全小学校区で6年生まで受け入れ（未実施校区：H19 18校区 → H22：0校区）

- ・宿題や校庭での球技、室内での読書やかるた遊びなど
- ・クラブによっては習字、料理教室や英会話教室を実施

〔支援内容〕

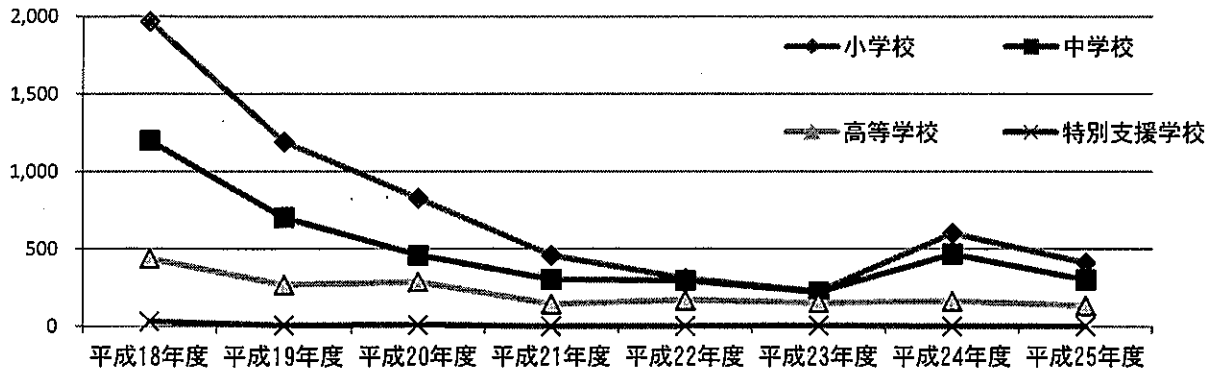
- ・9人以下の小規模クラブの運営費を支援（H8～）
- ・小学4年生以上、留守家庭以外の受け入れに追加支援（7,500円/人：H22～）
- ・小学6年生まで受け入れる児童クラブ整備の市町負担を軽減（1/3→1/6：H24～）

- 若狭町上中中学校と校区内5小学校を「土曜授業推進地域」に指定（平成26年度～）
 - ・月1回程度「ふるさと教育」「キャリア教育」「学力・体力向上」のテーマで授業
 - ・地元画家とのふるさと写生、親子奉仕作業後の道徳授業、老人会との交流（熊川音頭の講習）
福井県里山里海湖研究所員による環境授業など地域の外部人材が50回参加予定
- 土曜日の課外活動（希望者を対象とした学習機会の提供）は5市町、6中学校、2小学校で実施
 - ・テスト対策等の学習会、科学実験や手芸などのファミリースクール
- 土曜学習（教育委員会や社会教育団体が主体）は15市町で実施
 - ・大手電機機器メーカーの技術者によるロボット作り講座、親子カヌー体験などを実施
 - ・町の自然、食、文化、歴史等を体験する講座を季節ごとに実施

いじめ・不登校対策

<いじめ対策>

- いじめの件数は平成18年度の3,640件から平成25年度は855件に減少
平成25年度はいじめ解消率は95.7% (H24: 94.3%、H23: 71.4%)



- 福井県いじめ防止基本方針 (平成26年3月策定)、いじめ問題対策連絡協議会 (平成26年4月設置)

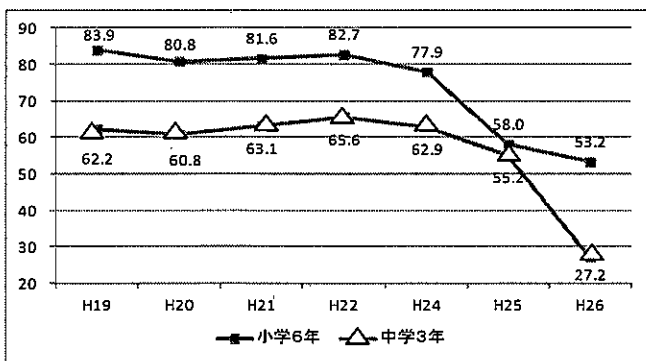
〔内容〕

- 児童生徒の毎日のいじめ自己チェックや定期的ないじめアンケート調査を実施
 - ・平成24年9月から教職員による未然防止のためのいじめ対策委員会を全学校に設置
 - いじめ発生後は複数の教員によるサポート班による早期情報共有と対応を徹底
 - ・ネットいじめの割合が増加 (H24: 5.0% → H25: 9.5% (全国平均: 4.7%))

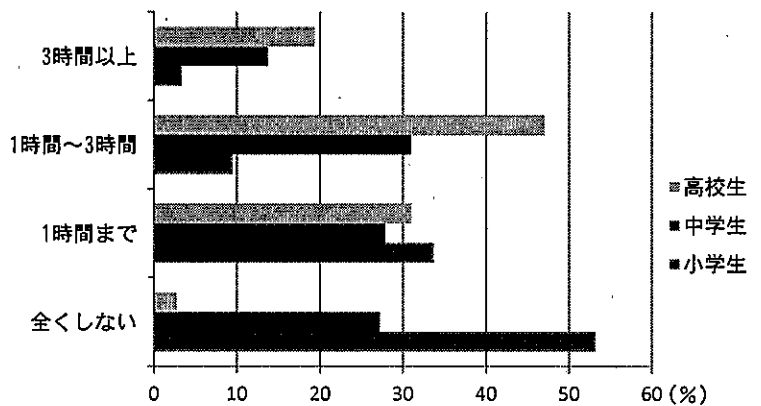
- 新中学1年生や保護者向けの携帯・スマートフォン対策

- ・新中学1年生と保護者にパンフレット「ケータイの恐さ知っていますか？」を配布
- ・中学・高校の新1年生に利用ガイド「インターネット通信の使い方に気をつけて」を配布
- ・生活指導・情報教育担当教員を対象にLineやGree等の担当者による改善研修を実施

- 携帯電話等を持っていない割合



- 平日のインターネット使用時間

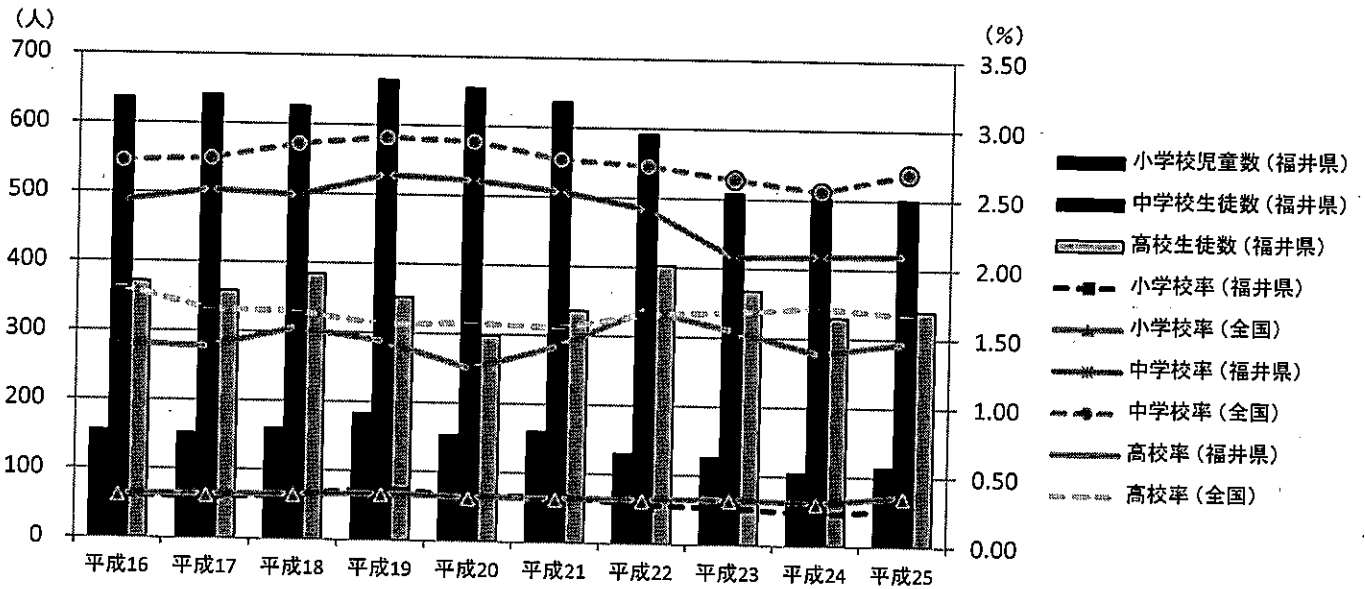


<不登校対策>

- 不登校児童生徒の割合は小学校・中学校とも減少、高校はほぼ横ばい

小学校 0.31% (H16) → 0.26% (H25)、中学校 2.44% (H16) → 2.10% (H25)

高校 1.41% (H16) → 1.47% (H25)



- 福井県不登校対策指針（平成22年8月）に基づき、未然防止、初期対応、自立支援を実施

〔対応〕

- 未然防止（少人数学級の実施、幼保小や小中間での体験入学や情報共有）
- 初期対応（欠席が5日に達した時点で状況シートを作成。複数名の教員で対応）
- 自立支援（スクールカウンセラーを小学校45校、全中学校、定時制高校7校に配置、スクールソーシャルワーカーを全市町と定時制高校7校に配置
大学生を学校や家庭に派遣（現在67名登録）

〔解消事例〕

- スクールカウンセラーとの相談の中で将来の就職希望を明言。関連する分野でのボランティア活動を始めて登校日数も向上
- 中学校で不登校を経験した生徒が少人数で教育を行う定時制高校に入学。同様の経験を持つ生徒の中で登校日数・意欲が向上

小中連携・中高連携

<小中連携>

- 小学校教員のうち中学校免許所有者は88.3%（全国平均62.0%）
中学校教員のうち小学校免許所有者は89.7%（全国平均25.9%）
小学校教員の50.7%が中学校勤務を経験、中学校教員の46.0%が小学校勤務を経験
- 小学校の公開授業に校区内の中学校教員が参加（H25：約300回）
中学校の公開授業に校区内の小学校の教員が参加（H25：約150回）

※ 福井市内中学校と校区内3小学校で全小中教員による「小中連携合同研修会」を開催
・年4回の合同研修で算数・数学の一貫した指導案・独自教材を作成
・ノートの取り方、発表方法や生活習慣の共有・共通化

<中高連携>

- 高校教員の22.9%が小中学校勤務を経験
- 高校の授業研究会に中学校教員が参加（H25：延べ126名）
中学校の授業研究会に高校の教員が参加（H25：延べ214名）
- 授業事例集「中高授業接続ガイド」（平成25年3月）により系統立った授業方法を共有
〔学年・科目ごとに必ず実施することを明記）
 - ・中学3年数学：二次関数では、高校と同様に方眼紙を用いず簡易グラフを書くことを習慣付け。
 - ・中学3年英語：高校での論理的に書く活動につながるよう構成メモや相互評価による英文作成

<中高一貫教育>

- 県立高校3校を中高連携校に指定して中学校に連携クラスを設置（H17～）
 - ① 丹生高校
 - ・朝日中学校と30名程度の連携クラスを設置
 - ・来年度から連携中学校を3校（宮崎中、越前中、織田中）増やし、4校に拡大
 - ② 美方高校
 - ・三方中学校、美浜中学校と連携クラス（学年全体の3割）を設置
 - ・来年度から連携中学校を1校（上中中）増やし、3校に拡大
 - ③ 金津高校
 - ・芦原中学校、金津中学校と45名程度の連携クラスを設置
 - ・中高の連携生徒に対して国際交流事業（中国、アメリカ）を実施

※ 3校の連携クラス国公立大学進学率は39%（連携クラス以外は26%）

- 平成27年4月から県内初の併設型中高一貫教育校として高志中・高校が開校予定
（高志中学校：1学年定員90名）

<理解度（わかる度）調査>

○ 平成23年度（試行）から県独自の高校生授業理解度調査を実施

平成26年度：全県立高校の生徒 16,695名調査

全科目平均わかる度76.0%（H25：75.3%）

〔教科別〕国語83.9%（H25:81.7%） 数学71.6%（H25:69.5%） 英語73.9%（H25:70.8%）
地歴公民76.0%（H25:74.1%） 理科70.0%（H25:65.8%）

	国語	数学	英語	地歴公民	理科
教員の指示や説明が分かりやすい	87.7%	81.9%	82.1%	83.6%	79.2%
教員の話し方や声の大きさが適切	93.1%	91.4%	90.8%	92.4%	91.8%
授業の難易度が適切	62.8%	40.6%	49.1%	61.8%	50.8%
板書や配布資料が適切	90.7%	92.1%	89.3%	86.2%	88.6%

〔数学の授業改善例〕

- 予習的課題を前提とした授業
 - ・ 家庭で予習的課題を考え、授業のはじめに教員に質問
 - ・ 授業前半で重要ポイントのみ指導
 - ・ 授業後半で問題演習
- タブレット端末に入っている動画教材を繰り返し視聴
 - ・ わかる生徒はどんどん先に進み、わからない生徒は理解するまで反復学習
- 関数や図形では板書中心ではなく、パワーポイントによる視覚的授業

〔英語の授業改善例〕

- 予習を前提とした討論・対話型の授業
 - ・ 家庭で音読や要約などの課題を事前に予習
 - ・ 授業では予習した内容を踏まえて討論などを実施
- スカイプを用いた海外姉妹校との英会話の実践

<職業教育>

○ 奥越明成高校に独自科目「観光」を設定

- ・ふるさとの振興と活性化に寄与する態度と能力を養うと同時に、魅力を伝えるコミュニケーション能力などの社会人「基礎力」を養成
- ・ビジネス情報科2年生が週2時間の授業。「観光学基礎」(JTB)を準教科書として使用

〔授業内容〕

- ・観光ポスター制作やPR、情報発信方法の学習、外部講師の講義(地域人材の基礎)、市役所観光担当職員との座談会での意見発表 など

○ 坂井高校に最新の職業教育機器を整備

- ・レーザ加工機やマルチアライメントリフト、風力と太陽光を組み合わせた発電装置など

○ 職業関連国家資格等の取得者数 (H22: 2,526人 → H25: 2,637人)

- ・ジュニアマイスターゴールド84名、シルバー89名

○ 企業や研究機関等の高度技術者による直接指導

- ・9高校で133回実施予定 (H26)

〔事例〕

- ・自動車メーカー担当者を招いてハイブリッドカーの整備授業
- ・工務店技術者を招いての木材加工の授業
- ・大学研究者を招いての燃料電池研究に対する助言・指導

○ 企業経営者や技術開発者と新商品の共同企画販売を実践

- ・12高校でそれぞれテーマを設定

〔実践例〕

- ・空き店舗を利用した中心市街地の活性化
市内の店舗や観光情報の収集・発信、アンテナショップへの運営協力・提案
- ・伝統的な食品生産技術の継承及び創作料理についての研究・企画
地元の特産品(葛、こんにゃく)の伝統的な製造技術の習得
- ・宇宙食(サバ缶)の開発と宇宙航空研究開発機構(JAXA)による講演

○ 企業の生産現場での長期(約10日間)の実習

- ・農業系・工業系高校8校の生徒64名が18社で実習 (H24~)

〔派遣企業例〕

- ・上江ファーム、福井鐵工(株)、アイシン・エイ・ダブリュ工業(株)
北陸電力(株)、パナソニック(株)機構部品ビジネスユニット など

英語教育

<小学校>

- 全ての小学校4年生が独自DVD教材「グローバル・スタディーズ」でDVDに合わせて歌う活動を月1回、年間10回実施
 - ・親しみやすいキャラクターを使ってアメリカの学校生活やイギリスのスポーツ、タンザニアの学校などを月ごとに紹介
- 小学校5年生・6年生は英語の表現や音声に慣れるため週1時間の外国語活動を実施

<中学校>

- NHK教材を活用して多様な表現を学習
 - 中学3年生は発展的な内容を取り入れたワークシートで実習
 - ※ 英検3級以上に合格した中学生数 (H23 : 1,348人 → H25 : 1,409人)

<高校>

- 全ての高校1年生が福井のことを取り上げた「福-イングリッシュ」を月1回以上活用
 - ・予習（家庭でのDVD視聴）を前提に授業は対話を中心。授業後もテキストとDVDで復習
- 〔教材内容〕
 - ・越前ガニやめがね、そば、若狭塗、恐竜、東尋坊などを英語で紹介して英語だけでなく福井についても理解を深める内容
- 職業系高校で英語を話す基礎的な力を伸ばす例文を利用した独自教材を作成
 - ・英語授業の冒頭で5～10分間の活用を予定
- 高校生100名を対象に2週間の米国研修（ホームステイ、交流活動等）を実施
 - ・参加した生徒のTOEICスコアは平均で54.4点上昇
 - ※ 英検準2級以上に合格した高校生数 (H23 : 901人 → H25 : 1,055人)
- 勝山では高校1校、中学校1校、小学校3校が英語教育強化地域拠点に指定
 - ・小学校3～5年生（外国語活動：週1時間）、6年生（英語科：週2時間）、専科教員配置など
 - ・中学校では生徒同士が同意、あいづちなどを用いて会話を続ける授業を導入
 - ・高校ではペアやグループでの会話を中心に英語の表現力を付ける授業を導入
 - ※ 中学校・高校で伸ばす英語力を体系的に整理して授業に活用

<教員>

- ALTは82人（生徒1人当たりの人数は全国1位）
- TOEIC730点以上の中学校教員は42.8%（全国平均：27.8%） 高校教員は72.4%（全国平均：52.7%）
 - ・米国 ラトガース大に1か月程度の海外研修派遣（H24～：30名派遣）
 - ・全ての中学校教員を対象とした英語研修（約200名参加）
 - ・小学4年生の担任を対象とした研修（約450名参加） ワークショップ（約240名参加）

ふるさと教育

- 高校生が福井の将来や自分自身の生き方について考える機会をつくるため、福井県ゆかりの企業経営者など11名をふるさと教員として県内高校で授業（これまで21回行い約980名参加）

- ・教員は小林栄三氏（伊藤忠商事会長）、野路國夫氏（コマツ会長）、小松長生氏（指揮者）、田畑直樹氏（葛西臨海水族園園長）など

〔授業内容〕

- 内田幸雄氏（JXホールディングス(株)取締役副社長執行役員）
 - ・「次世代のエネルギーについて」
 - ・第1回は講話と質疑応答、第2・3回は生徒から班別に提案発表

〔授業内容〕

- 田畑直樹氏（葛西臨海水族園園長）
 - ・「野生動物の保全と動物園の役割について」
 - ・第1回は動物園の歴史と役割について講話。第2回は生徒から動物園で働く、経営する視点で意見発表を予定

- 小学校では国語の中で古典を学ぶ時間を16時間増加（小学校3～6年生通算）

- ・H25は小学校3～6年生で50時間。H26は各学年で4時間百人一首を学ぶ時間を増加させ66時間

- 中学校では論語や漢詩などを学ぶ時間を4時間増加（中学校）

- ・H25は中学校1～3年生で80時間。H26は1・3年生1時間、2年生2時間増加させ84時間

- 地域への誇りや自信を深める希望学を活用した中学生向け講座を開催

（これまで7回行い約600名参加）

〔講座例〕

- アジアに向かう「福井の恐竜」
 - ・勝山・タイ・中国の三者間の国際的な学術文化交流により共有される「アジア恐竜時代」の物語
- 港がはなつ輝きと希望
 - ・三国港の水深維持を図る「三国港突堤」と、和洋折衷の意匠を凝らした「みくに龍翔小学校」の建設プロセスなど港町の物語

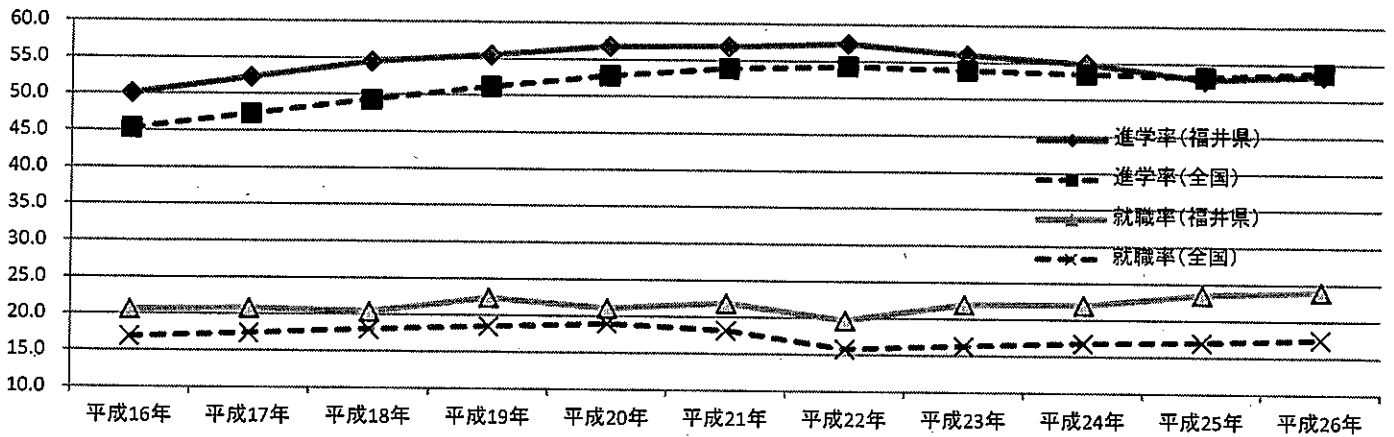
- 希望学調査の成果を盛り込んだ副教材「心のノート」を作成（H27～活用予定）

- ・7つの県内地域の物語「越前がにをめぐる人々」、「伝統をつなぐ～池田町水海の田楽能舞～」など

進路

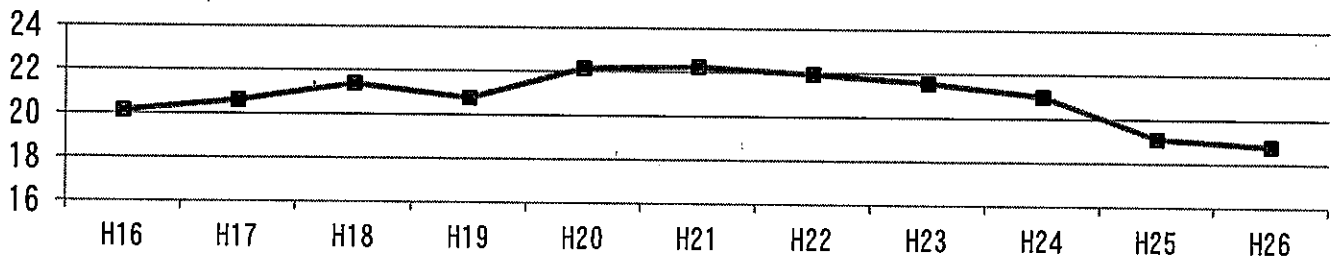
<進学・就職>

- 大学等進学率は平成22年3月の57.4%から平成26年3月は53.4%に低下
就職率は平成22年3月の19.7%から平成26年3月は24.0%に上昇



<進学指導>

- 高校卒業者のうち国公立大学への進学率は18.8% (H21: 22.3%)



- 大学等進学者のうち県外進学割合は62.2% (H16: 65.6%)

[主な進学指導]

- 国公立大学個別試験対策講座 (約900名参加)
 - ・土曜チャレンジセミナー (10～12月) 大学志望 1、2年生対象 各3回
 - ・冬期セミナー (12月) 大学志望 3年生対象
 - ・春期セミナー (3月に1泊2日で実施) 大学志望 2年生対象
- センター試験会場での模擬試験実施 (約3,000名参加)

<就職指導>

- 就職希望者の内定率は99.8%

平成26年3月卒業者のうち1,796名が就職 (県内: 1,595名、県外: 201名)

<全国上位3県>

平成26年3月	内定率	平成25年3月	内定率	平成24年3月	内定率
福井県	99.8	福井県	99.7	石川県	99.7
石川県	99.8	富山県	99.6	富山県	99.6
富山県	99.7	石川県	99.3	福井県	99.5

- 産業人材コーディネーター13名が企業訪問等によるニーズ把握と求人開拓等を実施
- 就職先分野のうち、割合が高いのは製造業 (733名、40.8%)、卸売・小売業 (206名、11.5%)、建設業 (196名、10.9%)、医療・福祉 (140名、7.8%)、宿泊・飲食サービス (102名、5.7%) の順

高大連携

○ 福井県立大学海洋生物資源学部と若狭高校との連携 (H25～)

海洋科学科

- ・ 大学教授等による授業3回 (若狭湾内での引き網・生物調査、えびの調理法による味覚変化など)
大学見学を2回実施

理数科

- ・ 「探究科学」に対する指導・助言のほか、県立大学研究室を生徒が訪問
食品工学研究室 (塩ウニの健康性機能、高血圧ラットの研究など)
海洋環境工学研究室 (津波シミュレーション、船の減揺研究など)

共同研究

- ・ 小浜湾の湧水調査共同研究、間伐材増殖礁調査

学生の交流

- ・ 学校祭等での相互展示 など

○ 福井県立大学と坂井農業高校の共同研究

- ・ 早生小麦「ふくこむぎ」の育成と栽培特性 (H25. 2)、小麦の特性調査 (H26. 6)
- ・ 絶滅危惧種「アゼオトギリ」の増殖 (H26. 7)

○ 福井大学とスーパーサイエンスハイスクール等を中心に課題研究・出前授業

○ 福井大学と羽水高校で授業力向上協定締結 (H26. 5)

- ・ 大学教授等を学校に派遣して教員に教科指導・生徒とのコミュニケーションの専門的な助言
- ・ 大学教授・大学院生と高校教員によるチーム指導も実施

○ 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進センターと若狭高校海洋科学科が海洋教育促進拠点として連携協定を締結 (H26. 6)

- ・ 海洋アライアンス海洋教育促進センター講師が若狭高校を訪問して授業実施 (4回)
(課題研究の進め方や地域の調査手法など)

○ 京都大学と福井県教育委員会が連携協定を締結 (H26. 8)

○ 10月から始まった京都大学グローバルサイエンスキャンパスに県内高校生8名が参加

- ・ 京都大学教授による系統別講義
- ・ 分野別実習・実験 (8人程度のグループが研究室で実施)

特別支援教育

- 教員の特別支援学校免許保有率は特支学級65.9% (全国:30.5%) 特支学校75.3% (全国:71.5%)
 - ・平成25年度採用試験から一括採用を特別支援学校卒に変更
 - ・年間4講座の特別支援学校免許の認定講習を実施 (H26:260名参加)
 - ・特別支援教育センターの指導主事による学校訪問研修など教員研修
平成25年度は91回、1,923人参加。その他コーディネーター研修等に2,000名参加
- 特別支援学級数は284学級 (H16:164学級 → H26:284学級)
 - ・軽度知的障害学級数は64学級 (H16) から108学級 (H26) に増加
 - ・軽度情緒障害学級数は46学級 (H16) から81学級 (H26) に増加
- 特別支援学校の生徒数は増加傾向 (H19:874人 → H26:981人)

<特別支援学校14校の児童生徒数>

	児童生徒数	
	H19	H26
幼稚部	7	14
小学部	285	294
中等部	191	215
高等部	385	455
専攻科	6	3
計	874	981

障害別	児童生徒数	
	H19	H26
視覚障害	27	26
聴覚障害	34	37
知的障害	591	695
肢体不自由	132	165
病弱	90	58
計	874	981

<発達障害>

- 特別な支援を必要とする子どもの割合 (H25.3)
 - 小学校:5.9%、中学校:4.2% (H20:全国) → 小学校:7.7%、中学校:4.0% (H24:全国)
- ① 本県独自の非常勤講師を配置 (小学校33名、中学校6名)
 - ② 特別支援教育支援員の配置 (幼稚園33名、小学校268名、中学校69名)
 - ③ 移行支援ガイドラインを作成し全保育所・幼稚園・小・中学校・高校に配布 (H25.3)
 - ・保育所から幼稚園・小・中・高校へと引き継ぐ際の段階ごとの手引き
 - ・県内7地区で全学校の代表者を集め研修会を実施

これまで137名の移行支援を実施 (小学校:83名、中学校:42名、高校:7名、就労5名)

<就労支援>

- 学校ジョブコーチ3名によるサポート企業実習 (平成26年度～)
 - ・自動販売機の製造、簡単な縫製やラベル貼りなどの実習現場に同行
 - ・本人に合った作業を選定したり、コミュニケーションの取り方、作業の進め方などを助言

平成26年度	生徒数	平均実習期間	実習企業
高校	9名	4.6日	9事業所
特別支援学校	19名	7.8日	16事業所

- 特別支援学校高等部卒業生の状況 (平成26年3月)

高等部卒業生の進路	人数	備考
一般就労	47名	作業労務等10名、A型事業所22名
進学	4名	大学2名、訓練校1名
その他	108名	施設通所・入所102名

定時制・通信制高校

<定時制高校>

- 平成22年度に定時制・通信課程をすべて単位制・2学期制に移行
各高校で3年間で修業可能な教育課程を導入
- 定時制高校は7校（H26定員480名（昼間部4校280名、夜間部5校200名））
- 昼間部の充足率（H22：71.1% → H26：61.1%）
夜間部の充足率（H22：48.5% → H26：35.5%）

<通信制高校>

- 1校に通信制課程を設置
・36講座が設定され1,409名が受講

高校再編

- 県立高等学校再編整備計画を決定（平成21年3月）
 - ・大野東高校の工業科・福祉科と勝山南高校の商業科・家庭科を再編して奥越明成高校開校（平成23年4月）
 - ・若狭東高校の農業科、工業科、若狭高校の商業科を再編
若狭高校に文理探究科設置（平成24年4月）
小浜水産高校を再編して若狭高校に海洋科学科設置（平成25年4月）
 - ・春江工業高校、坂井農業高校、金津高校の商業科、三国高校の家政科を再編して坂井高校開校（平成26年4月）
- 現在、福井県内には28の県立高校（普通科：16、職業科：11、総合学科：1）
平成26年度全日制定員は5,520名（普通科系：3,607名、職業系：1,773名、総合学科140名）
- 福井県の普通科：職業科の割合 7：3（H26：福井県32.1%、全国18.8%）
- 福井県内の高校1年生は10年間で11.7%減少（H16：9,293人 → H26：8,213人）
さらに10年後、高校1年生8,213人（H26）が約7,000人（H36）に減少見込

教員の指導力向上

<採用等>

- 平成27年度教員採用試験 999名受験、190名を採用（志願倍率：5.3倍）
- 近年は毎年約200名が退職。平成29年度以降10年程度は250名～300名/年が定年退職年度に到達

<教員の派遣、受け入れ>

- 県外学校や行政に教員を研修派遣（H24～）
 - ・ 県外の中高一貫教育校（静岡県立浜松西高校）などに教員を派遣（H24～）
（H24：1名、H25：4名、H26：4名）
 - ・ 東京事務所、大学・私学振興課、観光振興課、障害福祉課、工業技術センター、農業試験場などの行政部門に教員を派遣（H25～）（H25：9名、H26：12名）
- 東京芸術大学に中学校教員を1名派遣（日本画研修）（H26～）
- 県外教員を累計20名受け入れ（H23～）
 - ・ H26：6県8名（茨城県2名、長野県1名、奈良県1名、鳥取県1名、熊本県1名、高知県2名）
（H23：2県3名、H24：2県3名、H25：4県6名）

<研修>

- 福井県教育研究所では毎年約130の集合研修を行い、約3,500名が受講
⇒ 各学校に出向いて課題解決に向けた指導を行う訪問研修が増加（H20：106件→H25：297件）
- 福井県教育研究所機能強化策の提言（H26.2）において「通信型研修の整備」と「集合研修における実践型研修の充実」が提言
- 通信型研修
「タブレットの基礎（iPad編）」「魅力的な授業の作り方」など 約700名参加（H26）
- 実践型集合研修・専門研修
「理科におけるICT活用」「弦楽器指導者養成講座」など 約3,500名参加（H26）
- 教職大学院に107名の教員を派遣（H20～）
 - ・ 勤務校で中核を担うミドルリーダークラスを教職大学院に派遣
- 福井大学教職大学院と連携した新任教頭研修とミドル研修
 - ・ 新任教頭が講義・演習に2日間参加（H23～）
 - ・ 中堅教員が大学教員とクロスセッション等を実施（H24～）

<授業研究等>

- 優れた指導を共有するため「授業名人」171名を任命
（小学校68名、中学校43名、高校48名、特支12名）
 - ・ 「授業名人」の模範的な授業をDVDにまとめて若手教員に授業力向上に活用（約4,000名視聴）
- 教員が自主的に勉強を進めるグループ活動を活発化（H25：917回）
- 学習指導事例をWeb上で共有して、授業改善に活用（H25：4,430件（小中高））

スポーツ振興

<福井しあわせ元気国体（平成30年）に向けた競技力向上>

- 福井国体に向け平成23年9月に「競技力向上対策本部」を設置

〔活動内容〕

- ① 強化選手1,151名を指定
 - ・成年アスリート指定数：583名、ジュニアアスリート指定数：568名
 - ・強化校を指定（重点強化校）

中学	11競技	15部	（ハンドボール男子 明倫中など）
（ " ）	高校	26競技	43部（パドミントン女子 勝山高など）
（強化推進校）	中学	17競技	83部（剣道男子 鯖江中など）
（ " ）	高校	26競技	56部（サッカー男子 丸岡、北陸高など）
 - ・クラブ、企業チーム（強化指定クラブ数 21クラブ）
- ② スーパーアドバイザー（49名）を派遣して強化選手を指導（バレーボール 荻野正二氏）
- ③ 特別強化コーチ（3名）を派遣して指導者がいない競技への支援（カヌー 藤田五月氏）
- ④ 医・科学面から選手を支える専門トレーナーを派遣（87回）
- ⑤ U・Iターンによる就職支援システム（スポジョブふくい）
 - ・企業訪問（185社）、大学へのシステム説明会（11回 日本体育大学、大阪体育大学）
- ⑥ 強化備品・競技用具の整備（15競技に整備）

- 国体成績が向上（平成22年（千葉国体）34位 → 平成26年（長崎国体）17位）

<1県民1スポーツ>

- 小・中学生の全国体力・運動能力調査結果は全国上位
小学5年男子、女子：1位 中学2年男子、女子：1位（平成26年度）
- 子どもの運動実施率（週3日以上運動）
H25：小学生50.5%（全国平均 46.4%） 中学生74.1%（全国平均 71.9%）
- 中学校から高校への運動部活動の継続（H26：中学校70.0% 高校41.1%）

〔活動内容〕

- ① 県独自の「体力テスト」や全小中高校における「体力アップ元気プラン」の実施
- ② 伝承遊びやニュースポーツなどの多様な運動を経験（50校／年）
- ③ 始業前や休み時間、放課後に全小学校で「アクティブ1運動」実施
（Ex. マラソン、なわとび（冬季）、竹馬、鉄棒、グーパー体操）
- ④ 小学校低学年の体育の授業に指導者を派遣
- ⑤ 運動部活動指導者研修会の開催（300名参加）
- ⑥ 地域のスポーツ指導者を外部指導者として部活動に派遣し、部顧問と連携して部員を指導
（中学校 33校75人、高校 18校40人 派遣回数 年30回／部）

- 県民スポーツ祭を夏季・冬季に開催。冬季に体験イベント（スケート体験、親子スポーツ体験等）を開催（H25：約35,000人参加）
- 成人の運動実施率は36.8%（全国平均：47.5%）

<学校給食>

- 公立小学校給食は59.0%、中学校給食は30.7%の学校が単独調理方式
- 石塚左玄が唱えた「一物全体食」の考えを基に、魚の頭や野菜の葉などを残さず食べる「丸ごと給食」実施
- 学校給食における和食給食の提供（平成26年6月：2.9回/週）
- 県内すべての中学3年生の給食でカニの食べ方を学習
- 栄養教諭や料理長が協働して「鯖の塩麹味噌漬け焼き」と「里芋田楽」、「玄米入り根菜のジンジャー味噌汁」など地場産食材を使った給食のメニューを開発
 - ・11月～ 県内5ブロックにて10献立
- 学校給食調理コンテストに28校が参加（H26）
- 地場産給食を286校で提供（H17：162校 → H25：286校）
（使用率 H17：19.9% → H25：35.3%）

<食育>

- 県内の2小学校が、スーパー食育スクールの指定を受け、自然環境・生活環境が異なる地域の食文化を学習（鯖江市河和田小学校、高浜町青郷小学校）
 - ・野菜を使った給食を児童が考案（栄養教諭が補助）
 - ・伝統工芸である漆器の箸づくりや蒔絵体験 など
- 県内全小学校で、家庭科の調理実習時にこんぶ等を使ったダシのとり方を学習
 - ・11月～ 全小学校5年生
- 福井県の子どもは全国に比べ肥満・やせは少ない。
〔肥満・やせの割合（H25）〕
 - 福井県小学5年生男子：10.7%（全国：12.5%）
 - 女子：7.9%（全国：10.4%）
 - 中学2年生男子：7.6%（全国：9.8%）
 - 女子：8.7%（全国：10.7%）

文化振興・社会教育

<文化財保存・活用>

- 福井県の国指定重要文化財等は161件、国宝等は12件
- 県指定の文化財等は358件
- 埋蔵文化財センター職員による土器等を使った出前授業（H25：33小学校 約1,300名参加）
- 発掘調査報告会（約70名参加）、発掘現場説明会（約180名参加）、勾玉づくり（約80名）などを実施

<白川文字学>

- 平成16年度～ 小学校の漢字教育に白川文字学を活用
- 平成20年度～ 白川文字学の独自教材を小学校授業で活用
- 平成23年度～ 全小学校の漢字教育に白川文字学を活用（1～4学年 10時間 5,6学年 5時間）
- 平成25年度～ 先進的な漢字教育者を表彰する「白川静漢字教育賞」を創設
他の教員を指導する漢字指導者を66名認定（H25～）
中高での活用等を研究する白川文字学教育研究会が県下全334校に漢字教育素材集（間違いやすい漢字のエピソードなどのヒント集）を配布
国内の日本語・国語・漢字教育の専門家等を交えたネットワーク形成
- 平成26年度～ 台湾での漢字教育シンポジウムに参加（26.10.4～5、台北教育大学）

<文化振興>

- こども歴史文化館 入館者数（H19開館、H20：29,370人 → H25：51,753人）
 - ・ 杉田玄白などの先人62名、越前和紙やめがねづくり、スポーツなどの達人34名について展示紹介
 - ・ 白川静漢字ファンタジア（子どもの手のひらに漢字のへんとづくりが投影。正しく組み合わせ）
- 一流の芸術・文化を直接体験する子どもの数（H25：約74,000名参加）
 - ・ 県内の全小学5年生が県立音楽堂でプロオーケストラ講演等を鑑賞（H25：約7,500名参加）
 - ・ ふくい県民総合文化祭（H25：約5,000名参加） など
- 3小学校・3中学校、4高校で弦楽器活動を推進（H23～）
 - ・ 各学校で年間50回程度の部活動に講師を派遣
- 日本画を活用した美術教育（レプリカ作成等）を8小学校、12中学校、2高校で実施

<社会教育>

- 福井県内の公民館数209館
 - ・ 福井市社北公民館が全国優良公民館表彰最優秀賞を受賞（地域の環境学習）（H25）
- 福井ライフ・アカデミー入学者数（H21：10,105名 → H25：10,721名）
 - ・ 地域活動講座、ふるさとの展望など郷土学習講座などを開催

<読書活動>

- 「朝読書」全国都道府県実施率 小中高校総実施率90% 全国1位（H26）
- 県立図書館貸出冊数（人口比） H24、H25 全国1位 年間貸出冊数：802,710冊（H25）
県立図書館入館者数（人口比） H24 全国1位、H25 全国2位 年間入館者数：648,242人（H25）
 - ・ よく貸し出されている分野は「こども」27.4%（恐竜、乗り物の本や絵本など）
「文学」20.8%（人気作家のベストセラー小説など）
- 福井県ふるさと文学館 平成27年2月 開館予定
貴重資料 7,310点（直筆もの1,663件 写真、蔵書等5,647点）
 - ・ 津村節子講演会、俵万智「サラダ記念日」などの映像資料
- 平日1時間以上読書する割合 小学校14.0%（全国47位）、中学校13.3%（全国43位）
 - ・ 1か月に1冊も本を読まない高校生の割合〔不読率〕45.0%（H25）、41.1%（H26）

〔活動内容〕

- ① 高校生「読書のススメ」活動
- ② 元気ふくいっ子読書活動推進フォーラム
- ③ 教師が読書指導力を身に付ける読書セミナーの開催